

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|------------------------------|--------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 英語1 | | 担当者名 | 鈴木 由香 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 社会人として、またIT業界で必要とされる英語力を身に付ける。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | この科目は社会人に必要な教養を身に付ける必要性を啓発するものである。今までの英語学習経験において苦手意識を持っている者も、改めて英語というコミュニケーションツールの学習に取り組み今後の人生を豊かに過ごすための一つの手段と考えて取り組むこと。 | | | | |
| 授業概要 | プログラミング作成や、インターネットを使った情報検索など、この業界で仕事をするうえで避けては通れない「英語」に慣れ親しみ、苦手意識を克服し、社会人としての恥ずかしくないレベルの英語を身に付ける必要があると気づかせる。また、国際ナショナルウィークなどの国際交流イベントにおいて、積極的にコミュニケーションをとるための英会話を学び、英語に興味を持ち、これから自主的に英語を学ぶ気持ちを養う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | オリエンテーション1 | 19 | At a supermarket 数、量、比較などの文法 | |
| | 2 | オリエンテーション2 | 20 | Clothes and colors | |
| | 3 | Jobs Wh から始まるYes/Noで答える質問の練習 | 21 | Shops and stores 方向に関する文法 | |
| | 4 | Daily activities | 22 | Places around town | |
| | 5 | Current activities 現在形の文法 | 23 | Hobbies 名詞、動詞、不定詞 | |
| | 6 | Cities | 24 | Indoor exercise | |
| | 7 | People we admire 過去形の文法 | 25 | 後期中間の振り返り | |
| | 8 | Cities | 26 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 9 | 前期中間の振り返り | 27 | Travel plans 計画に関する文法(～する、～したい) | |
| | 10 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 28 | Trip preparations | |
| | 11 | On the weekend 過去形の質問文法 | 29 | Quantities 命令の文法 | |
| | 12 | On vacation | 30 | Cooking | |
| | 13 | Entertainment 未来形の文法 | 31 | Job skills 可能(～できる、する方法を知っている) | |
| | 14 | Music | 32 | Artistic talents | |
| | 15 | A city square 前置詞、間接句 | 33 | 後期の講義振り返り | |
| | 16 | Public transportaion | 34 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | |
| | 17 | 前期の講義振り返り | 35 | まとめ1 | |
| 18 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 36 | まとめ2 | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 40% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>25% R<<実働実践型学習>>25% A<<主体的参加型学習>>25% G<<海外体感型学習>>25% | | | | |
| 講師プロフィール | 海外留学、通訳案内、国連での業務経験を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|-----------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | HTML | | 担当者名 | 新井 愛美 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | タグ言語の理解とWebクリエイター試験の合格 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 2年次に学習するプログラム技術に必要不可欠となるWebページを構成するHTMLおよびCSSの知識を学び、次年度授業のための準備を行う。また、サーティファイが主催するWebクリエイター能力認定試験初級の資格試験を受験し、学んだWeb技術を証明する。 | | | | |
| 授業概要 | 2年次の応用プログラミング授業で必要となるWebページを構成する知識・技術を習得するため、テキスト内容確認後、オリジナルプリントを使った確認演習を行い、確実に知識・技術を習得する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(授業内容・目的・実習環境) | 19 | 前期復習 | |
| | 2 | HTML文法 HTMLとWWWサーバー | 20 | CSS文法 角丸・影・半透明のCSS | |
| | 3 | HTML文法 タグの基本と改行 | 21 | HTML文法 DIVタグとSPANタグ | |
| | 4 | HTML文法 見出しと段落 | 22 | CSS文法 回り込みのCSS | |
| | 5 | HTML文法 文字の装飾 | 23 | CSS文法 リンクのCSS | |
| | 6 | HTML文法 画像の掲載-1 | 24 | HTML文法 表の作成 | |
| | 7 | HTML文法 画像の掲載-2 | 25 | CSS文法 表のCSS指定 | |
| | 8 | HTML文法 リンクの作成-1 | 26 | HTML文法 表のグループ化とセルの結合 | |
| | 9 | HTML文法 リンクの作成-2 | 27 | HTML文法 表を活用したレイアウト | |
| | 10 | CSS文法 CSSの基本-1 | 28 | HTML文法 リストの作成と活用 | |
| | 11 | CSS文法 CSSの基本-2 | 29 | Webクリエイター試験対策演習 その1 | |
| | 12 | CSS文法 文字書式のCSS-1 | 30 | Webクリエイター試験対策演習 その2 | |
| | 13 | CSS文法 文字書式のCSS-2 | 31 | Webクリエイター試験対策演習 その3 | |
| | 14 | CSS文法 CSSにおける色指定 | 32 | Webクリエイター試験対策演習 その4 | |
| | 15 | CSS文法 背景のCSS | 33 | Webクリエイター試験対策演習 その5 | |
| | 16 | CSS文法 サイズと枠線のCSS | 34 | Webクリエイター試験対策演習 その6 | |
| | 17 | CSS文法 余白のCSS | 35 | 後期期末試験と解答解説及び総評 | |
| | 18 | 前期期末試験と解答解説及び総評 | 36 | まとめと総評 | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>70% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 過去に企業の新人研修、大学講座の経験があり、長年にわたって本校で授業担当をし、目標資格の合格率は毎年90%以上の実績を残している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 一般教養 | | 担当者名 | 伊藤 健生 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 就職活動の採用試験として実施されることが多いSPI試験の言語及び非言語に関して学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 就職試験対策SPIの準備を完了する | | | | |
| 授業概要 | テキストは「高橋書店 イッキに内定 SPI スピード解法 一問一答」を使用。 この科目は就職活動準備のための科目である。授業内で学ぶ解法のコツを踏まえて自主的な学習をしなければ、就職活動の準備になるとは言えない。よって、授業外での自主勉強が必要となることを理解し、1年間をかけて社会人に必要な教養を身に付ける必要性を啓発するものである。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | 二語の関係(復習) / 濃度 | |
| | 2 | 二語の関係 その1 / 割合 | 20 | 熟語(復習) / 推論(論理) | |
| | 3 | 二語の関係 その2 / 損益算 | 21 | 語句の用法(復習) / 推論(人口密度) | |
| | 4 | 二語の関係 その3 / 料金の割引 | 22 | 長文解読(復習1) / 推論(濃度) | |
| | 5 | 語句の用法 その1 / 代金の精算 | 23 | 長文解読(復習2) / 推論(増加率) | |
| | 6 | 語句の用法 その2 / 分割払い | 24 | 業界研究 および プリント復習1 / 推論(順序関係) | |
| | 7 | 語句の用法 その3 / 速さ | 25 | 業界研究 および プリント復習2 / 推論(位置関係) | |
| | 8 | 長文解読 設問を先に読む / 出会い算 | 26 | 面接練習 および プリント復習1 / 推論(数量) | |
| | 9 | 長文解読 冒頭文をチェックする / 通過算 | 27 | 面接練習 および プリント復習2 / 資料の読み取り | |
| | 10 | 長文解読 筆者の言いたいことを探す / 流水算 | 28 | 面接練習 および プリント復習3 / 推理 | |
| | 11 | 長文解読 文章をシンプル化する / 周回算 | 29 | 面接練習 および プリント復習4 / 物の流れと比率 | |
| | 12 | 長文解読 冒頭文をチェックする / 時刻表 | 30 | 面接練習 および プリント復習5 / ブラックボックス | |
| | 13 | 長文解読 筆者の言いたいことを探す / 集合 | 31 | まとめ(言語分野) その1 / グラフの領域 | |
| | 14 | 長文解読 文章をシンプル化する / 場合の数 | 32 | まとめ(言語分野) その2 / 条件と領域 | |
| | 15 | 長文解読 解答練習1 / 確率 | 33 | まとめ(言語分野) その3 / 料金表 | |
| | 16 | 長文解読 解答練習2 / 仕事算 | 34 | まとめ(言語分野) その4 / 長文読み取り | |
| | 17 | 前期の振り返り | 35 | 後期期末試験及び試験の解答解説と総評 | |
| | 18 | 前期期末試験及び試験の解答解説と総評 | 36 | 総まとめ | |
| 成績割合 | テスト | 80% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | レポート | 10% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 学習塾において、主要5科目の講義を担当し、その後、資格スクールで公務員試験対策の教員の処理や、就職試験SPIの講義を担当。また、SPI試験対策の参考書(8冊)や公務員試験の教員の処理の参考書(1冊)を執筆しており、某企業の就職試験用に学科試験と性格適性テストを作成して提供している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------------|--------------------------|--|--------------|
| 科目名 | コンピュータ概論a | | 担当者名 | 青島 由美子 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | コンピュータ関連知識の習得を目的とする | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 情報処理技術に関するハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの用語・技術を学び、専修学校教育振興会主催の情報検定(J検)情報活用3～1級の合格を目指す。また、国家試験であるITパスポートのテクノロジー部分の知識を習得し、1年次末までにITパスポート試験の全員合格を目指す。 | | | | |
| 授業概要 | 資格取得に重点を置いた科目である。情報処理技術者に必要な知識を得ながら、随時各試験への対策を実施する。そのため、講義内容の反復演習と、授業内で行う小テストで知識修得度を確認しながら、日々の努力を続けることだけが資格取得につながるという意識を持って授業に臨んでほしい。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス | 19 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | システム開発技術 |
| | 2 | 情報検定(J検)3級範囲 パソコンの基礎 | 20 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | ソフトウェア開発管理技術 |
| | 3 | 情報検定(J検)3級範囲 インターネットの基礎 | 21 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | プロジェクトマネジメント |
| | 4 | 情報検定(J検)3級範囲 情報モラル | 22 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | サービスマネジメント |
| | 5 | 情報検定(J検)2級範囲 経営戦略 | 23 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | システム監査 |
| | 6 | 情報検定(J検)2級範囲 マネージメント | 24 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | 基礎理論 |
| | 7 | 情報検定(J検)2級範囲 データ構造 | 25 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | システム構成要素 |
| | 8 | 情報検定(J検)2級範囲 アプリケーションソフトの活用 | 26 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | コンピュータ構成要素 |
| | 9 | 情報検定 過去問題解答 その1 | 27 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | システム構成要素 |
| | 10 | 情報検定 過去問題解答 その2 | 28 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ソフトウェア |
| | 11 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 企業活動 | 29 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ハードウェア |
| | 12 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 法務 | 30 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ヒューマンインタフェース |
| | 13 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 経営戦略マネジメント | 31 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | マルチメディア |
| | 14 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 技術戦略マネジメント | 32 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | データベース |
| | 15 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 ビジネスインダストリ | 33 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ネットワーク |
| | 16 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 システム戦略 | 34 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | セキュリティ |
| | 17 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 システム企画 | 35 | 後期期末試験と解答解説及び総評 | |
| 18 | 前期期末試験と解答解説及び総評 | 36 | まとめと総評 | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | 資格合格 | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<課題解決型学習>10% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>70% G<海外体感型学習>20% | | | | |
| 講師プロフィール | 通信制御のシステム開発を経験後、大手情報系企業のネットワークSE向け教育プロジェクト一員にトレーナーとして配属され、情報の普及、教育トレーナー養成の業務に従事。その間、2度のAward Trainerの栄誉を受賞。多数の情報系有資格者。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | マナー・プロトコール | | 担当者名 | 老川 香苗 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | 日常生活・ビジネスシーンなど幅広いマナー知識を得ることを目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 本校学生の受験が義務付けられている「マナー・プロトコール検定」3級の実験に向けた対策講座である。そのためにマナー・プロトコールの知識・技量を習得し、マナー・プロトコールの基本である「相手を思いやる心」を修得する。結果として、美しい心とそれにとまらぬ美しい振る舞いを身に付け、人間としての高い知性・品性を磨き、就職活動に活かしていく。 | | | | |
| 授業概要 | マナー・プロトコール試験の学習を進める中で、日本独特の習慣や風習などを改めて再認識し、社会人として日本人として、知っておくべき日本のしきたりを理解できるチャンスである。社会に出ていたら教えられることはない貴重な知識をしっかりと身に付けてほしい。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | お酒のマナー お酒の種類 | |
| | 2 | マナーとは何か | 20 | お酒のマナー ワインの基礎知識・その他のお酒の楽しみ方 | |
| | 3 | マナーの歴史と意味 日本の礼儀 | 21 | 「冠」のしきたり 冠婚葬祭とは | |
| | 4 | マナーの歴史と意味 西洋のマナー・アジアのマナー | 22 | 「冠」のしきたり 日本の主な通過儀礼 | |
| | 5 | 国際人としてのプロトコール プロトコールの原則 | 23 | 「婚」のしきたり 結婚の変遷 | |
| | 6 | 国際人としてのプロトコール 社交の場でのコミュニケーション | 24 | 「婚」のしきたり 結婚式のマナー | |
| | 7 | 国際人としてのプロトコール 国旗の扱い・礼拝の場でのマナー | 25 | 「葬」のしきたり 仏式の葬儀 | |
| | 8 | 社会人に必要なマナー 好印象を与える | 26 | 「葬」のしきたり 人式の葬儀 | |
| | 9 | 社会人に必要なマナー 礼装の基準 | 27 | 「葬」のしきたり キリスト教式の葬儀 | |
| | 10 | 社会人に必要なマナー 手紙のマナー | 28 | 「葬」のしきたり 葬儀・告別式でのマナー | |
| | 11 | ビジネスシーンでのマナー その必要性 | 29 | 「葬」のしきたり 法要のしきたり | |
| | 12 | ビジネスシーンでのマナー 名刺の扱い方・電話対応 | 30 | 「祭」のしきたり 1月の行事 | |
| | 13 | ビジネスシーンでのマナー 来客対応・ビジネス文章 | 31 | 「祭」のしきたり 2月～3月の行事 | |
| | 14 | 食事のマナー 作法の基本 | 32 | 「祭」のしきたり 4月～6月の行事 | |
| | 15 | 食事のマナー 和食のマナー | 33 | 「祭」のしきたり 7月～10月の行事 | |
| | 16 | 食事のマナー 西洋料理のマナー | 34 | 「祭」のしきたり 11月～12月の行事 | |
| | 17 | 食事のマナー 中国料理のマナー | 35 | 後期期末試験と解答解説及び総評 | |
| | 18 | 前期期末試験と解答解説及び総評 | 36 | まとめと総評 | |
| 成績割合 | テスト | 50% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 30% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 20年以上講師・研究者として、学校教育及び官公庁事業に従事し、且つマナーに関する上級資格を多数保持し、美しい心と知性・品性を習得した人材育成に向けた授業を展開する。秘書サービス接遇教育学会正会員・日本キャリアデザイン学会正会員。女性学修士。秘書実務士。キャリアデザイン支援士。メンタルケア心理士。他 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | ビジネスマナー | | 担当者名 | 堀切 昌美 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | ビジネス検定合格を主にビジネスシーンにおけるマナー習得を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 本科目標資格の1つである専修学校教育振興会主催「ビジネス能力検定(B検)」3～2級の合格を目指し試験対策を実施する。また、就職活動の準備として、社会人としてのビジネスマナーを身に付ける。 | | | | |
| 授業概要 | 就職活動において必要な能力は社会人と同じ立ち居振る舞いができるということである。そのために、自分の知らないマナーやルールを学び、実践することが重要になってくる。単に資格取得を目標とするだけでなく、本当のビジネスマナーを学ぶ意識を持つことが必要である。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | 仕事の原点はお客様の声 | |
| | 2 | キャリアと豊かな仕事生活 | 20 | 場に応じたビジネス会話/クレーム対応 | |
| | 3 | ビジネスマナーの基本/就業マナー | 21 | 接客・営業の進め方/会議の司会、運営の仕方 | |
| | 4 | 指示の受け方と報告・連絡・相談/話し方の基本 | 22 | チームワークと人のネットワーク | |
| | 5 | 会議への参加と協力/電話対応 | 23 | 仕事のマネジメント/IT時代の仕事の進め方 | |
| | 6 | 来客対応と面談の基本マナー/訪問マナー | 24 | 計画・スケジュール管理/企画書とその他の文書 | |
| | 7 | 仕事の基本となる8つの意識(仕事に対する基本姿勢) | 25 | 統計・データの読み方、まとめ方 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 産業と経済知識 | |
| | 9 | 会社のルールと企業倫理 | 27 | ビジネスと法律知識 | |
| | 10 | 仕事とIT | 28 | 後期中間試験 | |
| | 11 | ビジネス文書の基本と社内文書の書き方 | 29 | 情報収集とメディアの活用/会社の数字の読み方 | |
| | 12 | 情報の収集と分析 | 30 | 問題解決と論理的思考 | |
| | 13 | 業種業界の知識 | 31 | 顧客の創造へ | |
| | 14 | 会社の仕組みと売上・利益 | 32 | 履歴書の書き方/作成 | |
| | 15 | 社会保険と税金 | 33 | エントリーシートについて | |
| | 16 | 時代を生き抜くキャリアマネジメント | 34 | 自己紹介文の作成 | |
| | 17 | 前期期末試験 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 36 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | | |
| 成績割合 | テスト | 50% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 30% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランススループル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。企画部、人事部等、自身の培ったものを若い世代に活かしたく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | アルゴリズム | | 担当者名 | 矢島 徳章 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 整列・検索など様々なアルゴリズム理解を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | プログラム作成における基本的な考え方であるアルゴリズムと、それを図式で表現するJISフローチャートの記述方法、国家試験で出題される疑似言語の記述方法の学習を目標とする。 | | | | |
| 授業概要 | コンピュータプログラムの設計・作成に欠かせない計算手順を習得する科目であり、アルゴリズムの基本である順次・選択・反復の理解から、探索処理、整列処理などおよび、データ構造とアルゴリズムの関係を学習する。基本情報処理試験で出題される疑似言語もこの科目で習得する。また、動作確認の上でJava言語を利用しアルゴリズムの検証もおこなう。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | データ構造 | |
| | 2 | 流れ図の基本パターン | 20 | データ構造 | |
| | 3 | 流れ図の基本パターン | 21 | データ構造 | |
| | 4 | 繰返し処理 | 22 | 探索処理 線形探索 | |
| | 5 | 繰返し処理 | 23 | 探索処理 ブロック探索 | |
| | 6 | 繰返し処理 | 24 | 探索処理 二分探索 | |
| | 7 | 繰返し処理 | 25 | 探索処理 ハッシュ探索 | |
| | 8 | 中間試験 | 26 | 後期中間試験 | |
| | 9 | 配列操作 一次元配列 | 27 | 整列処理 基本選択法 | |
| | 10 | 配列操作 二次元配列 | 28 | 整列処理 基本交換法 | |
| | 11 | 疑似言語 | 29 | 整列処理 基本挿入法 | |
| | 12 | 疑似言語 | 30 | 文字列操作 | |
| | 13 | 疑似言語 | 31 | 文字列操作 | |
| | 14 | 疑似言語の基本パターン | 32 | ビット操作 | |
| | 15 | 疑似言語の基本パターン | 33 | ビット操作 | |
| | 16 | 疑似言語の基本パターン | 34 | ファイル処理 | |
| | 17 | 前期期末試験 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期講座の総復習 | 36 | 後期期講座の総復習 | | |
| 成績割合 | テスト | 60% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>75% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 高等教育機関で30年以上の経験及び、社旗人教育2以上の経験をもつ。また、学内業務システム作成の経験を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------------------|---------------------------------------|--|--------------|
| 科目名 | プログラミング実習1b | | 担当者名 | 石原 明人 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 3単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 216時間(週講時数6) |
| 授業目的 | プログラミング言語Javaを通して、プログラム開発を学ぶ。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | Javaプログラム言語を使ったプログラム作成方法習得。コマンドプロンプトとsakuraエディタを使ってJavaアプリケーションプログラムの作成方法を学び、Swingを使ったフレーム(ウィンドウ)プログラムの知識と、MySQLデータベースをプログラム上で操作する技術までを目標とする。また、7月末にオリジナルデータベース検索システム、1月末にデータベース操作システムを作成し、卒業作品展にて発表を行う。 | | | | |
| 授業概要 | Java Swingを使ったフレームプログラムの作成を通して、想像力、論理的思考、問題解決力を鍛える。また、6月下旬からSQLの知識が必要となるので、SQLとの授業連携が必要となる。また、2年次にはJSP/Servletの学習を行うため、Javaプログラムの基本となる本科目の知識習得は重要である。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(実習環境の確認)/フレームプログラム作成 | 19 | クラスの基本 | |
| | 2 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 20 | クラスの基本 | |
| | 3 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 21 | クラスの基本 | |
| | 4 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 22 | メニューバー作成 | |
| | 5 | アクション設定 | 23 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 6 | アクション設定 | 24 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 7 | アクション設定 | 25 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 後期中間試験 | |
| | 9 | 例外処理 | 27 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 10 | 例外処理 | 28 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 11 | 例外処理 | 29 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 12 | データベース検索プログラム | 30 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 13 | データベース検索プログラム | 31 | オリジナルシステム作成3(SQLと授業連動) | |
| | 14 | データベース検索プログラム | 32 | オリジナルシステム作成4(SQLと授業連動) | |
| | 15 | オリジナルシステム作成1 | 33 | オリジナルシステム作成5(SQLと授業連動) | |
| | 16 | オリジナルシステム作成1 | 34 | オリジナルシステム作成6(SQLと授業連動) | |
| | 17 | オリジナルシステム作成1 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期期末試験 | 36 | 作品発表・まとめ | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 本校情報処理専門科を卒業後、3年間ソフトウェア開発業務に従事し保険・金融系のプログラムを担当。その後母校での学科担任およびプログラミング実習担当として、PC環境整備やカリキュラム作成から授業まで担当している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | アプリケーション1a | | 担当者名 | 千葉 輝子 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 日商PC検定合格とビジネスソフトの活用を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | オフィスソフトであるワープロ・表計算の基本操作を学習。学習結果の証明として日商PC検定3～2級の合格を目指す。1年次の目標資格の1つであり、技術の修得だけでなく、次年度の就職活動に向けた資格取得も目的となる。 | | | | |
| 授業概要 | コンピュータ概論で取得目標としている、情報検定試験(J検)情報活用3～2級の試験範囲「アプリケーションソフトの利用と活用」を本科目で行う。アプリケーションソフトの利用と活用部分は、紙上より実際にアプリケーションを使用した方がイメージし易い為、本科目で行い確実に点数を取れるよう、繰り返し課題に取り組む。特に、複合参照に関してはITパスポートの範囲にも含まれている為、本科目での課題で理解を深める。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス | 19 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)1 | |
| | 2 | Word・Excel スキルチェック Excelの基本操作・数式の基本 | 20 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)2 | |
| | 3 | Wordの基本操作・ビジネス文書の基本 J検出題範囲 | 21 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)3 | |
| | 4 | ビジネス文書作成/四則演算・基本的な関数 | 22 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)4 | |
| | 5 | ビジネス文書作成/絶対参照・複合参照 | 23 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)5 | |
| | 6 | ビジネス文書作成/IF関数 など | 24 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)6 | |
| | 7 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 25 | 総合課題1 | |
| | 8 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 26 | 総合課題2 | |
| | 9 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 27 | 総合課題3 | |
| | 10 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 28 | 総合課題4 | |
| | 11 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 29 | 総合課題5 | |
| | 12 | ビジネス文書総合課題1/日商PC検定出題範囲1 | 30 | 総合課題6 | |
| | 13 | ビジネス文書総合課題2/日商PC検定出題範囲2 | 31 | 総合課題7 | |
| | 14 | ビジネス文書総合課題3/日商PC検定出題範囲3 | 32 | 総合課題8 | |
| | 15 | ビジネス文書総合課題4/日商PC検定出題範囲4 | 33 | 総合課題9 | |
| | 16 | ビジネス文書総合課題5/日商PC検定出題範囲5 | 34 | 総合課題10 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期振り返り | 36 | 後期振り返り | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 商社にて国内営業のアシスタントとして、事務処理(商品の入出庫管理、見積書の作成、売上の月次処理など)の経験があり、実務で活かせるオフィス操作の指導を心掛けている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | SQL | | 担当者名 | 石原 明人 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | リレーショナルデータベースを操作するSQLを習得する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | データベース操作言語であるSQL言語を習得する。データベースの検索・追加・更新・削除といった基本的な操作と検索における様々な条件設定の方法を学習する。また、プログラム作成でもSQLを使用するため、授業連携をしながらデータベース操作を修得する。また、国家試験合格のためのデータベース知識も同時に学習を進める。 | | | | |
| 授業概要 | RDBMSで使用するSQL文をMySQLを使って実践。データベース検索までの知識習得後、プログラミング授業と連携し、Javaプログラム上でデータベース検索するシステム作りを行う。授業後半はデータベース構築の知識を身に付け、オリジナルデータベースを作成する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | データベース作成 | |
| | 2 | 基本検索文/正規化練習 | 20 | テーブル作成 | |
| | 3 | 重複なし検索/正規化練習 | 21 | データ追加 | |
| | 4 | 条件検索/正規化練習 | 22 | データ更新 | |
| | 5 | 条件検索(IN)/正規化練習 | 23 | データ削除 | |
| | 6 | 条件検索(BETWEEN)/正規化練習 | 24 | 別名指定・関数 | |
| | 7 | あいまい検索/正規化練習 | 25 | 副問い合わせ1 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 副問い合わせ2 | |
| | 9 | 並び替え/正規化練習 | 27 | 後期中間試験 | |
| | 10 | 並び替え/正規化練習 | 28 | 外部キー設定 | |
| | 11 | 複数テーブルを使った検索/正規化練習 | 29 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 12 | 複数テーブルを使った検索/正規化練習 | 30 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 13 | グループ化/正規化練習 | 31 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 14 | グループ化/正規化練習 | 32 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 15 | グループ化の条件指定/正規化練習 | 33 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 16 | グループ化の条件指定/正規化練習 | 34 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 17 | 前期期末試験 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 36 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | | |
| 成績割合 | テスト | 45% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | レポート(実習成果) | 45% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>70% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 本校情報処理専門科を卒業後、3年間ソフトウェア開発業務に従事し保険・金融系のプログラムを担当。その後母校での学科担任およびプログラミング実習担当として、PC環境整備やカリキュラム作成から授業まで担当している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | ネットワーク概論 | | 担当者名 | 片山 昌樹 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | ネットワーク主にインターネットの仕組みを習得する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | コンピュータ技術に必要不可欠となったネットワークの知識や技術を深く掘り下げ、実習を交えながらネットワーク技術を修得する。特にインターネットの標準プロトコルであるTCP/IPに関する知識を中心にネットワークの仕組みを学習する | | | | |
| 授業概要 | コンピュータ技術に必要不可欠となったネットワークの知識や技術を深く掘り下げ、実習を交えながらネットワーク技術を修得する。特にインターネットの標準プロトコルであるTCP/IPに関する知識を中心にネットワークの仕組みを学習する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | ポートについて その1 | |
| | 2 | ネットワークについて | 20 | ポートについて その2 | |
| | 3 | ネットワークの概念 | 21 | ポートについて その3 | |
| | 4 | ネットワークで用いる単位について | 22 | ポートについて その4 | |
| | 5 | 基数変換について | 23 | ルーティングの基礎 | |
| | 6 | 速度の求め方 その1 | 24 | スタティックルーティング | |
| | 7 | 速度の求め方 その2 | 25 | ルータの取り扱い及びネットワーク構築の基礎 その1 | |
| | 8 | 速度の求め方 その3 | 26 | ルータの取り扱い及びネットワーク構築の基礎 その2 | |
| | 9 | IPアドレスについて | 27 | ネットワーク構築 実習 その1 | |
| | 10 | IPアドレスの計算方法 その1 | 28 | ネットワーク構築 実習 その2 | |
| | 11 | IPアドレスの計算方法 その2 | 29 | ネットワーク構築 実習 その3 | |
| | 12 | IPアドレスの計算方法 その3 | 30 | ネットワーク構築 実習 その4 | |
| | 13 | ドメインについて その1 | 31 | ネットワーク構築 応用 その1 | |
| | 14 | ドメインについて その2 | 32 | ネットワーク構築 応用 その2 | |
| | 15 | ドメインについて その3 | 33 | ネットワーク構築 応用 その3 | |
| | 16 | ドメインについて その4 | 34 | ネットワーク構築 応用 その4 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| | 18 | 前期振り返り | 36 | 後期振り返り | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外のセキュリティ情報を常に追いかけ、その情報を授業に反映します。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 基礎ゼミ1A | | 担当者名 | 石原 明人 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | PBLによる学生の主体的なグループ学習 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 円滑なコミュニケーション能力の育成とグループマネジメント能力やグループ内での役割認知力を鍛える | | | | |
| 授業概要 | プログラミングの授業と連動して、その時期に学んだ技術を活かしたPBLを実施。テーマに沿ったアプリケーションの企画・立案・スケジュール作成および管理から実際のシステム作成およびテストまで提示された期間に遂行し、その過程と成果物についてのプレゼンテーションを行う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(実習環境の確認)/フレームプログラム作成 | 19 | クラスの概念 | |
| | 2 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 20 | クラスの概念 | |
| | 3 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 21 | クラスの概念 | |
| | 4 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 22 | メニューバー作成 | |
| | 5 | アクション設定 | 23 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 6 | アクション設定 | 24 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 7 | アクション設定 | 25 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 後期中間試験 | |
| | 9 | 例外処理 | 27 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 10 | 例外処理 | 28 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 11 | 例外処理 | 29 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 12 | データベース検索プログラム | 30 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 13 | データベース検索プログラム | 31 | オリジナルシステム作成3(SQLと授業連動) | |
| | 14 | データベース検索プログラム | 32 | オリジナルシステム作成4(SQLと授業連動) | |
| | 15 | オリジナルシステム作成1 | 33 | オリジナルシステム作成5(SQLと授業連動) | |
| | 16 | オリジナルシステム作成1 | 34 | オリジナルシステム作成6(SQLと授業連動) | |
| | 17 | オリジナルシステム作成1 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期期末試験 | 36 | 後期振り返り | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 本校情報処理専門科を卒業後、3年間ソフトウェア開発業務に従事し保険・金融系のプログラムを担当。その後母校での学科担任およびプログラミング実習担当として、PC環境整備やカリキュラム作成から授業まで担当している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|---|--------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 英語2 | | 担当者名 | 鈴木 由香 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 社会人として、またIT業界で必要とされる英語力を身に付ける。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | この科目は社会人に必要な教養を身に付ける必要性を啓発するものである。今までの英語学習経験において苦手意識を持っている者も、改めて英語というコミュニケーションツールの学習に取り組み今後の人生を豊かに過ごすための一つの手段と考えて取り組むこと。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「OXFORD Talk Time 3 Student Book」を使用。 プログラミング作成や、インターネットを使った情報検索など、この業界で仕事をするうえで避けては通れない「英語」に慣れ親しみ、苦手意識を克服し、社会人としての恥ずかしくないレベルの英語を身に付ける必要があると気づかせる。また、国際ナショナルウィークなどの国際交流イベントにおいて、積極的にコミュニケーションをとるための英会話を学び、英語に興味を持ち、これから自主的に英語を学ぶ気持ちを養う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | オリエンテーション1 | 19 | Customs /It＋不定詞、before、when、after | |
| | 2 | オリエンテーション2 | 20 | Events and celebrations | |
| | 3 | Describing /現在形、現在進行形、過去形 | 21 | Jobs /How long、since、forなど | |
| | 4 | Free-time activities | 22 | At work | |
| | 5 | Geography /比較級、最上級 | 23 | Recent activities /過去完了形 | |
| | 6 | Weather | 24 | Leisure activities | |
| | 7 | Everyday activities /過去進行形 | 25 | 後期中間のまとめ | |
| | 8 | Life experiences | 26 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 9 | 前期中間のまとめ | 27 | Describing people /how longの使い方 | |
| | 10 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 28 | Every habits | |
| | 11 | School subjects /～ing、～edやalady、never、still、yetなど | 29 | Stories /while、thenなど | |
| | 12 | At school | 30 | In the news | |
| | 13 | Phone messages /can、will、could、wouldなど | 31 | Before you travel /Have to、have got to、mustなど | |
| | 14 | Wishes /wishの使い方、too、enoughなど | 32 | Travel experiences | |
| | 15 | Opinions | 33 | 後期期末のまとめ | |
| | 16 | 前期期末のまとめ | 34 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 35 | まとめ1 | |
| 18 | 前期の振り返り | 36 | まとめ2 | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 40% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>25% R<<実働実践型学習>>25% A<<主体的参加型学習>>25% G<<海外体感型学習>>25% | | | | |
| 講師プロフィール | 海外留学、通訳案内、国連での業務経験を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|---------------------------------------|--|--------------|
| 科目名 | プログラミング実習2c | | 担当者名 | 矢島 徳章 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 8単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 228時間(週講時数8) |
| 授業目的 | プログラミング言語JavaによるWebシステムの理解と開発を学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | Java技術であるJSP/Servletの技術を学習し、ショッピングサイトの仕組みを理解して、オリジナルのショッピングサイトを制作する技術修得を目標とする。 | | | | |
| 授業概要 | 1年次履修しているHTMLおよびSQLを理解していること。およびプログラミングのにおいてJava言語を理解し、なおかつJava言語でデータベースの簡単な操作ができることを前提として授業が行われる。また、Webシステム(ショッピングサイト)作成において、システムのデザインに関する知識をシステム設計にて補間する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Java文法の復習 | 19 | JSP ディレクティブ、式、宣言、スクリプトレットタグ | |
| | 2 | クラス・インターフェース・スレッド | 20 | JSP パラメータによる出力変更、DBアクセス | |
| | 3 | サーブレット レスポンス出力 | 21 | BeanとJSPのアクションタグ、Beanのスコープ | |
| | 4 | サーブレット パラメータ受信 | 22 | MVCモデル データチェック・マスタ検索 | |
| | 5 | サーブレット DBアクセス | 23 | MVCモデル 接続プールによるDBアクセス | |
| | 6 | サーブレット DBマスター一覧 | 24 | MVCモデルによるマスタメンテナンス | |
| | 7 | サーブレット DB条件検索1 | 25 | MVCモデルとスクリプトの利用 | |
| | 8 | サーブレット DB条件検索2 | 26 | MVCモデルのまとめ | |
| | 9 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 27 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 10 | サーブレット セッション | 28 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 11 | サーブレット セッションを利用した一覧のページ分割 | 29 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 12 | サーブレット マスタ追加 | 30 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 13 | サーブレット マスタ変更 | 31 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 14 | サーブレット トランザクション処理1 | 32 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 15 | サーブレット トランザクション処理2 | 33 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 16 | サーブレット トランザクション処理3 | 34 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説・総評及び復習 | 35 | 後期期末試験の解答解説・総評及び復習 | |
| | 18 | 前期まとめと振り返り | 36 | 作品発表及び振り返り | |
| 成績割合 | テスト | 45% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | 実習成果及び作品評価 | 45% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体験型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 高等教育機関で30年以上の経歴と、夜会人教育2年以上の経歴および、学内業務システム作成の経歴を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|---------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 資格試験対策a | | 担当者名 | 青島 由美子 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 情報処理技術者試験対策を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 国家試験「基本情報技術者」の合格を目指すため、ネットラーニング社から提供されているe-Learning教材「基本情報対策」を受講し、6・7月に実施される「午前免除試験」を受講し、基本情報技術者試験の午前免除を目標とする。また、9月に実施される情報検定(J検)システム試験を受験し、午後試験のための知識を高める | | | | |
| 授業概要 | 就活において大きな武器となる国家試験「情報処理技術者」合格のための知識を学習する。午前免除を仕組みを利用するためにe-Learningを使った学習を5月から1カ月間で完了し、4回受験可能な修了試験(午前免除試験)に挑戦するため、5～6月の集中的な学習が必要となる。また、10月に実施される秋期試験での合格を目標とするが、卒業後の4月に実施される春期試験も受験できるよう学習を継続する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス | 19 | 基本情報午後問対策 情報セキュリティ | |
| | 2 | 基本情報過去問重点学習(ハードウェア) | 20 | 基本情報午後問対策 ハードウェア | |
| | 3 | 基本情報過去問重点学習(ソフトウェア) | 21 | 基本情報午後問対策 ソフトウェア | |
| | 4 | 基本情報過去問重点学習(データベース) | 22 | 基本情報午後問対策 データベース | |
| | 5 | 基本情報過去問重点学習(ネットワーク) | 23 | 基本情報午後問対策 ネットワーク | |
| | 6 | 基本情報過去問重点学習(ネットワーク) | 24 | 基本情報午後問対策 ソフトウェア設計 | |
| | 7 | 基本情報過去問重点学習(セキュリティ) | 25 | 基本情報午後問対策 プロジェクトマネジメント | |
| | 8 | 基本情報過去問重点学習(アルゴリズムとデータ構造) | 26 | 基本情報午後問対策 サービスマネジメント | |
| | 9 | 基本情報過去問重点学習(企業と法務) | 27 | 基本情報午後問対策 システム戦略 | |
| | 10 | 基本情報過去問重点学習(経営戦略) | 28 | 基本情報午後問対策 経営戦略・企業と法務/経営 | |
| | 11 | 基本情報過去問重点学習(情報システム戦略) | 29 | 基本情報午後問対策 データ構造とアルゴリズム1 | |
| | 12 | 基本情報過去問重点学習(開発技術) | 30 | 基本情報午後問対策 データ構造とアルゴリズム2 | |
| | 13 | 基本情報過去問重点学習(プロジェクトマネジメント) | 31 | 基本情報午後問対策 データ構造とアルゴリズム3 | |
| | 14 | 基本情報過去問重点学習(システム監査と内部統制) | 32 | 基本情報午後問対策 言語:表計算1 | |
| | 15 | 午前免除・修了試験対策1 | 33 | 基本情報午後問対策 言語:表計算2 | |
| | 16 | 午前免除・修了試験対策2 | 34 | 基本情報午後問対策 言語:表計算3 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 35 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | |
| 18 | 前期振り返り | 36 | 後期振り返り | | |
| 成績割合 | テスト | 50% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 30% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>> | | | | |
| 講師プロフィール | 通信制御のシステム開発を経験後、大手情報系企業のネットワークSE向け教育プロジェクト一員にトレーナーとして配属され、情報の普及、教育トレーナー養成の業務に従事。その間、2度のAward Trainerの栄誉を受賞。多数の情報系有資格者。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | データベースソフト演習 | | 担当者名 | 新井 愛美 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | オフィスソフトAccessを | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | オフィスソフトの1つであるMicrosoft Office Accessの操作を学習。Microsoft社が実施するMicrosoft Office Specialist Access試験の合格を目指す。また、学習した知識・技術を使ってオリジナルのデータベースシステムを作成する。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「FOM よくわかるMicrosoft Access 2016基礎」「FOM よくわかるMicrosoft Access 2016応用」を使用。IT業界において頻繁に使われるデータベースソフトの操作について理解を深め、資格試験合格を目指す。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Accessの基礎 | 19 | フォームの活用 | |
| | 2 | データベースの設計と作成 | 20 | メイン・サブフォーム | |
| | 3 | テーブルによるデータの格納 | 21 | メイン・サブレポート | |
| | 4 | リレーションシップの作成 | 22 | レポートの活用 | |
| | 5 | クエリによるデータの加工 | 23 | 便利な機能応用編 | |
| | 6 | フォームによるデータの入力 | 24 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成1 | |
| | 7 | クエリによるデータの抽出と集計 | 25 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成2 | |
| | 8 | レポートによるデータの印刷 | 26 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成3 | |
| | 9 | 便利な機能 | 27 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成4 | |
| | 10 | 基礎編総合演習1 | 28 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成5 | |
| | 11 | 基礎編総合演習2 | 29 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成1 | |
| | 12 | テーブルの活用 | 30 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成2 | |
| | 13 | 参照整合性 | 31 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成3 | |
| | 14 | クエリの活用 | 32 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成4 | |
| | 15 | アクションクエリ | 33 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成5 | |
| | 16 | 不一致クエリ | 34 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成6 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 過去に企業の新人研修、大学講座の経験があり、長年にわたって本校で授業担当をしている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | システム設計 | | 担当者名 | 亀田 崇明 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | システム開発における工程と各工程の手法を学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | システム開発における工程と各工程の手法を学習と共に、国家試験である基本情報技術者のシステム開発部分の知識を網羅し、資格試験対策としての役割も持つ。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「ゆたか創造舎 ソフトウェア開発の知識」を使用。 本科目は、国家試験「情報処理技術者」合格の為の知識を学習すると共に、エンジニアとして実作業を行う際に必要な知識を事例を交えて学習します。 卒業制作等で行う開発作業において、各工程で適切な手法を用いて円滑に高品質なプログラムが作成出来るよう、実作業で使える知識を習得すること。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | 構造化設計技法1 | |
| | 2 | 開発工程とレビュー | 20 | 構造化設計技法2 | |
| | 3 | システム開発の要点 | 21 | 構造化設計技法1 | |
| | 4 | 各工程で行う事 | 22 | 構造化設計技法2 | |
| | 5 | ソフトウェアのライフサイクル | 23 | 物理データ設計 | |
| | 6 | 契約モデル・開発取引の共通フレーム | 24 | 入出力詳細設計 | |
| | 7 | ソフトウェアパッケージについて | 25 | プログラム設計で行う事 | |
| | 8 | CASEツールについて | 26 | モジュール設計技法1 | |
| | 9 | プロジェクト計画 | 27 | モジュール設計技法2 | |
| | 10 | プロジェクト管理 | 28 | プログラミングで行う事 | |
| | 11 | 見積り技法とプロジェクト組織の編制 | 29 | プログラミング言語の概念1 | |
| | 12 | 品質管理と顧客満足度 | 30 | プログラミング言語の概念2 | |
| | 13 | 外部設計について | 31 | テストで行うこと・ケースの設計技法1 | |
| | 14 | 要求定義技法 | 32 | テストで行うこと・ケースの設計技法2 | |
| | 15 | 要件分析・設計技法 | 33 | テストの進め方と結果の管理1 | |
| | 16 | コード設計 | 34 | テストの進め方と結果の管理2 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| | 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | |
| 成績割合 | テスト | 70% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 10% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | IT企業で長年エンジニアとして勤務した経験があり、開発に対する実務経験に基づいてエンジニア養成に向けた授業を展開する。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------|--------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 教養基礎 | | 担当者名 | 堀切 昌美 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | コミュニケーション能力主に伝える力を培う。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | プレゼンテーションとは、基本的に人と人とのコミュニケーションである。この力をつけることは、仕事だけでなく広く人生を豊かにすることにつながる。よって、プレゼンテーションの基本技術を身に付け、人前で話すことに自信を深めることができるよう、話し方や聴き方を学んだ後に、授業は発表を技法を中心に展開していく。実際にプレゼンテーションを実施することで、工夫を凝らしながら意欲を持って挑戦していく態度を養いたい。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「FOM プレゼンテーション・テクニック 惹きつけて離さない説得のコツ」を使用。 就職活動をする上においても、プレゼンテーション能力は誰にとっても誰にとっても必要なものであるため、自己PRなどの面接練習も取り入れる。発表を体験することで、自信もついていくと考えられるので、資料収集やシナリオ作成などの準備を授業外でも行うことを求めたい。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・内容説明) | 19 | 発表技術を磨く・・・伝え方のテクニック | |
| | 2 | プレゼンテーションの概要/形式/流れの確認 | 20 | 表現・視線/パーソナリティ | |
| | 3 | 話し方を学ぶ | 21 | ビジュアル化の方法と実践1 | |
| | 4 | 聞き手の分析/話の聴き方 | 22 | ビジュアル化の方法と実践2 | |
| | 5 | 情報収集・整理の必要性 | 23 | リハーサルの仕方について | |
| | 6 | プレゼンテーションの組み立て1 | 24 | 読み上げ原稿の作成 | |
| | 7 | プレゼンテーションの組み立て2 | 25 | 筋書き表の確認 | |
| | 8 | 意見・アイデアの出し方/訴求ポイント | 26 | リハーサルで気を付けること | |
| | 9 | プレゼンテーションの構成について | 27 | プレゼンテーション能力を高めるために | |
| | 10 | 設計シートの作成 | 28 | プレゼンテーション本番での注意点 | |
| | 11 | 資料作成 | 29 | 最終プレゼン課題→1年生へのメッセージ | |
| | 12 | 内容検討 | 30 | 最終プレゼン課題 内容決め1 | |
| | 13 | シナリオ作成1 | 31 | 最終プレゼン課題 内容決め2 | |
| | 14 | シナリオ作成2 | 32 | 最終プレゼン課題 スライド作成1 | |
| | 15 | 配布資料の準備、確認項目 | 33 | 最終プレゼン課題 スライド作成2 | |
| | 16 | 前期プレゼン発表 リハーサル | 34 | 最終プレゼン課題 リハーサル | |
| | 17 | 前期プレゼン発表 | 35 | 最終プレゼン課題 本番 | |
| 18 | 前期プレゼン総評 | 36 | 最終プレゼン課題 総評 | | |
| 成績割合 | テスト | | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | | | | |
| | レポート | | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 0% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>> | | | | |
| 講師プロフィール | 私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。企画部、人事部等、自身の培ったものを若い世代に活かしたく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|----------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | ネットワーク実習a | | 担当者名 | 片山 昌樹 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 主にLinuxサーバーの構築を学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 1年次に学んだネットワークの知識を活かし、Linux環境でのネットワーク構築設定や、サーバ構築とサービス設定などを学習する。また、ネットワークに必要なUNIX環境の知識や操作も経験する | | | | |
| 授業概要 | テキスト「技術評論社 ポートとソケットがわかればインターネットがわかる」を使用。 Linuxを使ったサーバ構築やサービス構築を実機を使いながら経験し、サーバ構築の方法を学習する | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Linux インストール | 19 | Web Server の構築 その1 | |
| | 2 | Linux の基礎 その1 | 20 | Web Server の構築 その2 | |
| | 3 | Linux の基礎 その2 | 21 | Web Server の構築 その3 | |
| | 4 | Linux の基礎 その3 | 22 | Web Server の構築 その4 | |
| | 5 | vi の使い方 その1 | 23 | Web Server の構築 その5 | |
| | 6 | vi の使い方 その2 | 24 | Web Server の構築 その6 | |
| | 7 | パーミッションの基礎 その1 | 25 | Web Server マルチドメインの構築 その1 | |
| | 8 | パーミッションの基礎 その2 | 26 | Web Server マルチドメインの構築 その2 | |
| | 9 | パーミッションの基礎 その3 | 27 | Web Server マルチドメインの構築 その3 | |
| | 10 | マルチユーザーの基礎 その1 | 28 | Web Server マルチドメインの構築 その4 | |
| | 11 | マルチユーザーの基礎 その2 | 29 | Web Server マルチドメインの構築 その5 | |
| | 12 | マルチユーザーの基礎 その3 | 30 | Mail Server の基礎 その1 | |
| | 13 | DNS の基礎 | 31 | Mail Server の基礎 その2 | |
| | 14 | DNS構築 その1 | 32 | Mail Server の基礎 その3 | |
| | 15 | DNS構築 その2 | 33 | Mail Server の基礎 その4 | |
| | 16 | DNS構築 その3 | 34 | Mail Server の基礎 その5 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~ 69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外のセキュリティ情報を常に追いかけて、その情報を授業に反映します。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | セキュリティ概論 | | 担当者名 | 片山 昌樹 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | コンピュータセキュリティの理解を深める。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | ネットワーク実習で構築したLinuxサーバを活用して、ネットワークで使用されるセキュリティ技術を実習を通して体験する。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「SBクリエイティブ 動かして学ぶセキュリティ入門講座」を使用。 テキストを使った様々な脆弱性や脅威の知識を学びながら、ネットワーク実習と連動して授業を進め、ネットワーク実習で構築したサーバのセキュア設定を組み込んでいく。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | セキュリティの基礎 | 19 | プライバシーポリシー その1 | |
| | 2 | GMITS を用いたセキュリティ概念 その1 | 20 | プライバシーポリシー その2 | |
| | 3 | GMITS を用いたセキュリティ概念 その2 | 21 | プライバシーポリシー その3 | |
| | 4 | GMITS を用いたセキュリティ概念 その3 | 22 | プライバシーポリシー その4 | |
| | 5 | PDCA サイクル その1 | 23 | プライバシーポリシー その5 | |
| | 6 | PDCA サイクル その2 | 24 | ISMS その1 | |
| | 7 | PDCA サイクル その3 | 25 | ISMS その2 | |
| | 8 | PDCA サイクル その4 | 26 | ISMS その3 | |
| | 9 | CIA その1 | 27 | PGP を用いた暗号化メール その1 | |
| | 10 | CIA その2 | 28 | PGP を用いた暗号化メール その2 | |
| | 11 | CIA その3 | 29 | PGP を用いた暗号化メール その3 | |
| | 12 | CIA その4 | 30 | iptables その1 | |
| | 13 | 個人情報保護法 その1 | 31 | iptables その2 | |
| | 14 | 個人情報保護法 その2 | 32 | iptables その3 | |
| | 15 | 個人情報保護法 その3 | 33 | iptables その4 | |
| | 16 | 個人情報保護法 その4 | 34 | iptables その5 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>70% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外のセキュリティ情報を常に追いかけて、その情報を授業に反映します。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|--------------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 経営・戦略 | | 担当者名 | 石渡 裕之 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | 国家試験のストラテジ分野・マネジメント分野を学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 国家試験「ITパスポート」「基本情報技術者」に出題される、ストラテジおよびマネジメント分野で出題される用語や知識を深く掘り下げ、試験のために覚えた用語の本当の役割を理解する。また、IT企業のみならず多くの企業でも必要とされる経営・戦略の基礎知識の理解を目標に、様々な企業事例の紹介や経営・戦略の根底に結びつく考え方などについても幅広く取り上げます。 | | | | |
| 授業概要 | グローバル社会における趨勢なども大きく関わる問題なので社会情勢への関心も促していきたいところです。政治・経済に渡る一般常識の再確認も時折行いながら、資格獲得だけに留まらない経営・戦略の考え方の把握に努めたいと思います。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | ガイダンス(授業目的、進行の仕方についての説明) | 19 | 情報システム戦略 | |
| | 2 | 企業活動の中心にある経営・組織論 | 20 | 業務プロセス | |
| | 3 | プロジェクト総合マネジメント | 21 | ソリューションビジネス | |
| | 4 | プロジェクト・スコープ・マネジメントとプロジェクト・タイム・マネジメント | 22 | システム活用促進・評価 | |
| | 5 | プロジェクト・コスト・マネジメントとプロジェクト品質マネジメント | 23 | システム化計画 | |
| | 6 | プロジェクト人的資源マネジメント | 24 | 要件定義と調達計画 | |
| | 7 | プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント | 25 | 経営戦略手法 | |
| | 8 | プロジェクト・リスク・マネジメントとプロジェクト調達マネジメント | 26 | ビジネス戦略と目標・評価 | |
| | 9 | サービスマネジメント | 27 | 技術開発戦略の立案・計画 | |
| | 10 | サービスの設計移行 | 28 | ビジネスシステム | |
| | 11 | サービスマネジメントプロセス | 29 | エンジニアリングシステム | |
| | 12 | サービスの運用 | 30 | 民生機器・産業機器 | |
| | 13 | ファシリティマネジメント | 31 | 企業活動 | |
| | 14 | システム監査 その1 | 32 | 知的財産権 | |
| | 15 | システム監査 その2 | 33 | セキュリティ関連法規 | |
| | 16 | 内部統制 | 34 | 労働関連・取引関連の法規 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| | 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | |
| 成績割合 | テスト | 80% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | レポート | 10% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 広告制作会社のコピーライター及びプランナーの経験の後、印刷会社の企画デザイン部で管理者として実務経験を経てフリーランスに。併せて専門学校講師として教壇に立つようになり、講師歴は常勤時も併せると25年に及ぶ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 応用ゼミ2A | | 担当者名 | 矢島 徳章 | |
| 学科 | 情報システム科 情報システムコース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | PBLによる学生の主体的なグループ学習 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 円滑なコミュニケーション能力の育成とグループマネジメント能力やグループ内での役割認知力を鍛える | | | | |
| 授業概要 | 応用プログラミングの授業と連動して、その時期に学んだ技術を活かしたPBLを実施。テーマに沿ったWebシステムの企画・立案・スケジュール作成および管理から実際のシステム作成およびテストまで提示された期間に遂行し、その過程と成果物についてのプレゼンテーションを行う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Java文法の復習 | 19 | JSP ディレクティブ、式、宣言、スクリプトレットタグ | |
| | 2 | クラス・インターフェース・スレッド | 20 | JSP パラメータによる出力変更、DBアクセス | |
| | 3 | サーブレット レスポンス出力 | 21 | BeanとJSPのアクションタグ、Beanのスコープ | |
| | 4 | サーブレット パラメータ受信 | 22 | MVCモデル データチェック・マスタ検索 | |
| | 5 | サーブレット DBアクセス | 23 | MVCモデル 接続プールによるDBアクセス | |
| | 6 | サーブレット DBマスター一覧 | 24 | MVCモデルによるマスタメンテナンス | |
| | 7 | サーブレット DB条件検索1 | 25 | MVCモデルとスクリプトの利用 | |
| | 8 | サーブレット DB条件検索2 | 26 | MVCモデルのまとめ | |
| | 9 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 27 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 10 | サーブレット セッション | 28 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 11 | サーブレット セッションを利用した一覧のページ分割 | 29 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 12 | サーブレット マスタ追加 | 30 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 13 | サーブレット マスタ変更 | 31 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 14 | サーブレット トランザクション処理1 | 32 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 15 | サーブレット トランザクション処理2 | 33 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 16 | サーブレット トランザクション処理3 | 34 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説・総評及び復習 | 35 | 後期期末試験の解答解説・総評及び復習 | |
| | 18 | 前期まとめと振り返り | 36 | 作品発表及び振り返り | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 高等教育機関で30年以上の経歴と、夜会人教育2年以上の経歴および、学内業務システム作成の経歴を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|------------------------------|--------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 英語1 | | 担当者名 | 鈴木 由香 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 社会人として、またIT業界で必要とされる英語力を身に付ける。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | この科目は社会人に必要な教養を身に付ける必要性を啓発するものである。今までの英語学習経験において苦手意識を持っている者も、改めて英語というコミュニケーションツールの学習に取り組み今後の人生を豊かに過ごすための一つの手段と考えて取り組むこと。 | | | | |
| 授業概要 | プログラミング作成や、インターネットを使った情報検索など、この業界で仕事をするうえで避けては通れない「英語」に慣れ親しみ、苦手意識を克服し、社会人としての恥ずかしくないレベルの英語を身に付ける必要があると気づかせる。また、国際交流イベントにおいて、積極的にコミュニケーションをとるための英会話を学び、英語に興味を持ち、これから自主的に英語を学ぶ気持ちを養う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | オリエンテーション1 | 19 | At a supermarket 数、量、比較などの文法 | |
| | 2 | オリエンテーション2 | 20 | Clothes and colors | |
| | 3 | Jobs Wh から始まるYes/Noで答える質問の練習 | 21 | Shops and stores 方向に関する文法 | |
| | 4 | Daily activities | 22 | Places around town | |
| | 5 | Current activities 現在形の文法 | 23 | Hobbies 名詞、動詞、不定詞 | |
| | 6 | Cities | 24 | Indoor exercise | |
| | 7 | People we admire 過去形の文法 | 25 | 後期中間の振り返り | |
| | 8 | Cities | 26 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 9 | 前期中間の振り返り | 27 | Travel plans 計画に関する文法(～する、～したい) | |
| | 10 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 28 | Trip preparations | |
| | 11 | On the weekend 過去形の質問文法 | 29 | Quantities 命令の文法 | |
| | 12 | On vacation | 30 | Cooking | |
| | 13 | Entertainment 未来形の文法 | 31 | Job skills 可能(～できる、する方法を知っている) | |
| | 14 | Music | 32 | Artistic talents | |
| | 15 | A city square 前置詞、間接句 | 33 | 後期の講義振り返り | |
| | 16 | Public transportaion | 34 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | |
| | 17 | 前期の講義振り返り | 35 | まとめ1 | |
| 18 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 36 | まとめ2 | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 40% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>25% R<<実働実践型学習>>25% A<<主体的参加型学習>>25% G<<海外体感型学習>>25% | | | | |
| 講師プロフィール | 海外留学、通訳案内、国連での業務経験を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|-----------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | HTML | | 担当者名 | 新井 愛美 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | タグ言語の理解とWebクリエイター試験の合格 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 2年次に学習するプログラム技術に必要不可欠となるWebページを構成するHTMLおよびCSSの知識を学び、次年度授業のための準備を行う。また、サーティファイが主催するWebクリエイター能力認定試験初級の資格試験を受験し、学んだWeb技術を証明する。 | | | | |
| 授業概要 | 2年次の応用プログラミング授業で必要となるWebページを構成する知識・技術を習得するため、テキスト内容確認後、オリジナルプリントを使った確認演習を行い、確実に知識・技術を習得する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(授業内容・目的・実習環境) | 19 | 前期復習 | |
| | 2 | HTML文法 HTMLとWWWサーバー | 20 | CSS文法 角丸・影・半透明のCSS | |
| | 3 | HTML文法 タグの基本と改行 | 21 | HTML文法 DIVタグとSPANタグ | |
| | 4 | HTML文法 見出しと段落 | 22 | CSS文法 回り込みのCSS | |
| | 5 | HTML文法 文字の装飾 | 23 | CSS文法 リンクのCSS | |
| | 6 | HTML文法 画像の掲載-1 | 24 | HTML文法 表の作成 | |
| | 7 | HTML文法 画像の掲載-2 | 25 | CSS文法 表のCSS指定 | |
| | 8 | HTML文法 リンクの作成-1 | 26 | HTML文法 表のグループ化とセルの結合 | |
| | 9 | HTML文法 リンクの作成-2 | 27 | HTML文法 表を活用したレイアウト | |
| | 10 | CSS文法 CSSの基本-1 | 28 | HTML文法 リストの作成と活用 | |
| | 11 | CSS文法 CSSの基本-2 | 29 | Webクリエイター試験対策演習 その1 | |
| | 12 | CSS文法 文字書式のCSS-1 | 30 | Webクリエイター試験対策演習 その2 | |
| | 13 | CSS文法 文字書式のCSS-2 | 31 | Webクリエイター試験対策演習 その3 | |
| | 14 | CSS文法 CSSにおける色指定 | 32 | Webクリエイター試験対策演習 その4 | |
| | 15 | CSS文法 背景のCSS | 33 | Webクリエイター試験対策演習 その5 | |
| | 16 | CSS文法 サイズと枠線のCSS | 34 | Webクリエイター試験対策演習 その6 | |
| | 17 | CSS文法 余白のCSS | 35 | 後期期末試験と解答解説及び総評 | |
| | 18 | 前期期末試験と解答解説及び総評 | 36 | まとめと総評 | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>70% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 過去に企業の新人研修、大学講座の経験があり、長年にわたって本校で授業担当をし、目標資格の合格率は毎年90%以上の実績を残している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|----------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 一般教養 | | 担当者名 | 伊藤 健生 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 就職活動の採用試験として実施されることが多いSPI試験の言語及び非言語に関して学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 就職試験対策SPIの準備を完了する | | | | |
| 授業概要 | テキストは「高橋書店 イッキに内定 SPI スピード解法 一問一答」を使用。 この科目は就職活動準備のための科目である。授業内で学ぶ解法のコツを踏まえて自主的な学習をしなければ、就職活動の準備になるとは言えない。よって、授業外での自主勉強が必要となることを理解し、1年間をかけて社会人に必要な教養を身に付ける必要性を啓発するものである。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | 二語の関係(復習) / 濃度 | |
| | 2 | 二語の関係 その1 / 割合 | 20 | 熟語(復習) / 推論(論理) | |
| | 3 | 二語の関係 その2 / 損益算 | 21 | 語句の用法(復習) / 推論(人口密度) | |
| | 4 | 二語の関係 その3 / 料金の割引 | 22 | 長文解読(復習1) / 推論(濃度) | |
| | 5 | 語句の用法 その1 / 代金の精算 | 23 | 長文解読(復習2) / 推論(増加率) | |
| | 6 | 語句の用法 その2 / 分割払い | 24 | 業界研究 および プリント復習1 / 推論(順序関係) | |
| | 7 | 語句の用法 その3 / 速さ | 25 | 業界研究 および プリント復習2 / 推論(位置関係) | |
| | 8 | 長文解読 設問を先に読む / 出会い算 | 26 | 面接練習 および プリント復習1 / 推論(数量) | |
| | 9 | 長文解読 冒頭文をチェックする / 通 過算 | 27 | 面接練習 および プリント復習2 / 資料の読み 取り | |
| | 10 | 長文解読 筆者の言いたいことを探す / 流水算 | 28 | 面接練習 および プリント復習3 / 推理 | |
| | 11 | 長文解読 文章をシンプル化する / 周 回算 | 29 | 面接練習 および プリント復習4 / 物の流れと比 率 | |
| | 12 | 長文解読 冒頭文をチェックする / 時 刻表 | 30 | 面接練習 および プリント復習5 / ブラックボク ス | |
| | 13 | 長文解読 筆者の言いたいことを探す / 集合 | 31 | まとめ(言語分野) その1 / グラフの領域 | |
| | 14 | 長文解読 文章をシンプル化する / 場 合の数 | 32 | まとめ(言語分野) その2 / 条件と領域 | |
| | 15 | 長文解読 解答練習1 / 確率 | 33 | まとめ(言語分野) その3 / 料金表 | |
| | 16 | 長文解読 解答練習2 / 仕事算 | 34 | まとめ(言語分野) その4 / 長文読み取り | |
| | 17 | 前期の振り返り | 35 | 後期期末試験及び試験の解答解説と総評 | |
| | 18 | 前期期末試験及び試験の解答解説と総 評 | 36 | 総まとめ | |
| 成績割合 | テスト | 80% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | レポート | 10% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~ 69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 学習塾において、主要5科目の講義を担当し、その後、資格スクールで公務員試験対策の数的処理や、就職試験SPIの講義を担当。また、SPI試験対策の参考書(8冊)や公務員試験の数的処理の参考書(1冊)を執筆しており、某企業の就職試験用に学科試験と性格適性テストを作成して提供している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------------|--------------------------|--|--------------|
| 科目名 | コンピュータ概論a | | 担当者名 | 青島 由美子 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | コンピュータ関連知識の習得を目的とする | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 情報処理技術に関するハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの用語・技術を学び、専修学校教育振興会主催の情報検定(J検)情報活用3～1級の合格を目指す。また、国家試験であるITパスポートのテクノロジー部分の知識を習得し、1年次末までにITパスポート試験の全員合格を目指す。 | | | | |
| 授業概要 | 資格取得に重点を置いた科目である。情報処理技術者に必要な知識を得ながら、随時各試験への対策を実施する。そのため、講義内容の反復演習と、授業内で行う小テストで知識修得度を確認しながら、日々の努力を続けることだけが資格取得につながるという意識を持って授業に臨んでほしい。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス | 19 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | システム開発技術 |
| | 2 | 情報検定(J検)3級範囲 パソコンの基礎 | 20 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | ソフトウェア開発管理技術 |
| | 3 | 情報検定(J検)3級範囲 インターネットの基礎 | 21 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | プロジェクトマネジメント |
| | 4 | 情報検定(J検)3級範囲 情報モラル | 22 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | サービスマネジメント |
| | 5 | 情報検定(J検)2級範囲 経営戦略 | 23 | ITパスポート範囲 マネジメント系 | システム監査 |
| | 6 | 情報検定(J検)2級範囲 マネージメント | 24 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | 基礎理論 |
| | 7 | 情報検定(J検)2級範囲 データ構造 | 25 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | システム構成要素 |
| | 8 | 情報検定(J検)2級範囲 アプリケーションソフトの活用 | 26 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | コンピュータ構成要素 |
| | 9 | 情報検定 過去問題解答 その1 | 27 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | システム構成要素 |
| | 10 | 情報検定 過去問題解答 その2 | 28 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ソフトウェア |
| | 11 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 企業活動 | 29 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ハードウェア |
| | 12 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 法務 | 30 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ヒューマンインタフェース |
| | 13 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 経営戦略マネジメント | 31 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | マルチメディア |
| | 14 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 技術戦略マネジメント | 32 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | データベース |
| | 15 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 ビジネスインダストリ | 33 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | ネットワーク |
| | 16 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 システム戦略 | 34 | ITパスポート範囲 テクノロジー系 | セキュリティ |
| | 17 | ITパスポート範囲 ストラテジ系 システム企画 | 35 | 後期期末試験と解答解説及び総評 | |
| 18 | 前期期末試験と解答解説及び総評 | 36 | まとめと総評 | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | 資格合格 | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<課題解決型学習>10% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>70% G<海外体感型学習>20% | | | | |
| 講師プロフィール | 通信制御のシステム開発を経験後、大手情報系企業のネットワークSE向け教育プロジェクト一員にトレーナーとして配属され、情報の普及、教育トレーナー養成の業務に従事。その間、2度のAward Trainerの栄誉を受賞。多数の情報系有資格者。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | マナー・プロトコール | | 担当者名 | 老川 香苗 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | 日常生活・ビジネスシーンなど幅広いマナー知識を得ることを目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 本校学生の受験が義務付けられている「マナー・プロトコール検定」3級の実験に向けた対策講座である。そのためにマナー・プロトコールの知識・技量を習得し、マナー・プロトコールの基本である「相手を思いやる心」を修得する。結果として、美しい心とそれにとまとう美しい振る舞いを身に付け、人間としての高い知性・品性を磨き、就職活動に活かしていく。 | | | | |
| 授業概要 | マナー・プロトコール試験の学習を進める中で、日本独特の習慣や風習などを改めて再認識し、社会人として日本人として、知っておくべき日本のしきたりを理解できるチャンスである。社会に出ていたら教えられることはない貴重な知識をしっかりと身に付けてほしい。 | | | | |
| 授業計画表 | | 授業内容 | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | お酒のマナー お酒の種類 | |
| | 2 | マナーとは何か | 20 | お酒のマナー ワインの基礎知識・その他のお酒の楽しみ方 | |
| | 3 | マナーの歴史と意味 日本の礼儀 | 21 | 「冠」のしきたり 冠婚葬祭とは | |
| | 4 | マナーの歴史と意味 西洋のマナー・アジアのマナー | 22 | 「冠」のしきたり 日本の主な通過儀礼 | |
| | 5 | 国際人としてのプロトコール プロトコールの原則 | 23 | 「婚」のしきたり 結婚の変遷 | |
| | 6 | 国際人としてのプロトコール 社交の場でのコミュニケーション | 24 | 「婚」のしきたり 結婚式のマナー | |
| | 7 | 国際人としてのプロトコール 国旗の扱い・礼拝の場でのマナー | 25 | 「葬」のしきたり 仏式の葬儀 | |
| | 8 | 社会人に必要なマナー 好印象を与える | 26 | 「葬」のしきたり 人式の葬儀 | |
| | 9 | 社会人に必要なマナー 礼装の基準 | 27 | 「葬」のしきたり キリスト教式の葬儀 | |
| | 10 | 社会人に必要なマナー 手紙のマナー | 28 | 「葬」のしきたり 葬儀・告別式でのマナー | |
| | 11 | ビジネスシーンでのマナー その必要性 | 29 | 「葬」のしきたり 法要のしきたり | |
| | 12 | ビジネスシーンでのマナー 名刺の扱い方・電話対応 | 30 | 「祭」のしきたり 1月の行事 | |
| | 13 | ビジネスシーンでのマナー 来客対応・ビジネス文章 | 31 | 「祭」のしきたり 2月～3月の行事 | |
| | 14 | 食事のマナー 作法の基本 | 32 | 「祭」のしきたり 4月～6月の行事 | |
| | 15 | 食事のマナー 和食のマナー | 33 | 「祭」のしきたり 7月～10月の行事 | |
| | 16 | 食事のマナー 西洋料理のマナー | 34 | 「祭」のしきたり 11月～12月の行事 | |
| | 17 | 食事のマナー 中国料理のマナー | 35 | 後期期末試験と解答解説及び総評 | |
| | 18 | 前期期末試験と解答解説及び総評 | 36 | まとめと総評 | |
| 成績割合 | テスト | 50% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 30% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P≪課題解決型学習≫10% R≪実働実践型学習≫5% A≪主体的参加型学習≫80% G≪海外体感型学習≫5% | | | | |
| 講師プロフィール | 20年以上講師・研究者として、学校教育及び官公庁事業に従事し、且つマナーに関する上級資格を多数保持し、美しい心と知性・品性を習得した人材育成に向けた授業を展開する。秘書サービス接遇教育学会正会員・日本キャリアデザイン学会正会員。女性学修士。秘書実務士。キャリアデザイン支援士。メンタルケア心理士。他 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | ビジネスマナー | | 担当者名 | 堀切 昌美 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | ビジネス検定合格を主にビジネスシーンにおけるマナー習得を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 本科目標資格の1つである専修学校教育振興会主催「ビジネス能力検定(B検)」3～2級の合格を目指し試験対策を実施する。また、就職活動の準備として、社会人としてのビジネスマナーを身に付ける。 | | | | |
| 授業概要 | 就職活動において必要な能力は社会人と同じ立ち居振る舞いができるということである。そのために、自分の知らないマナーやルールを学び、実践することが重要になってくる。単に資格取得を目標とするだけでなく、本当のビジネスマナーを学ぶ意識を持つことが必要である。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | 仕事の原点はお客様の声 | |
| | 2 | キャリアと豊かな仕事生活 | 20 | 場に応じたビジネス会話/クレーム対応 | |
| | 3 | ビジネスマナーの基本/就業マナー | 21 | 接客・営業の進め方/会議の司会、運営の仕方 | |
| | 4 | 指示の受け方と報告・連絡・相談/話し方の基本 | 22 | チームワークと人のネットワーク | |
| | 5 | 会議への参加と協力/電話対応 | 23 | 仕事のマネジメント/IT時代の仕事の進め方 | |
| | 6 | 来客対応と面談の基本マナー/訪問マナー | 24 | 計画・スケジュール管理/企画書とその他の文書 | |
| | 7 | 仕事の基本となる8つの意識(仕事に対する基本姿勢) | 25 | 統計・データの読み方、まとめ方 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 産業と経済知識 | |
| | 9 | 会社のルールと企業倫理 | 27 | ビジネスと法律知識 | |
| | 10 | 仕事とIT | 28 | 後期中間試験 | |
| | 11 | ビジネス文書の基本と社内文書の書き方 | 29 | 情報収集とメディアの活用/会社の数字の読み方 | |
| | 12 | 情報の収集と分析 | 30 | 問題解決と論理的思考 | |
| | 13 | 業種業界の知識 | 31 | 顧客の創造へ | |
| | 14 | 会社の仕組みと売上・利益 | 32 | 履歴書の書き方/作成 | |
| | 15 | 社会保険と税金 | 33 | エントリーシートについて | |
| | 16 | 時代を生き抜くキャリアマネジメント | 34 | 自己紹介文の作成 | |
| | 17 | 前期期末試験 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 36 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | | |
| 成績割合 | テスト | 50% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 30% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランススループル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。企画部、人事部等、自身の培ったものを若い世代に活かしたく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | アルゴリズム | | 担当者名 | 矢島 徳章 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 整列・検索など様々なアルゴリズム理解を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | プログラム作成における基本的な考え方であるアルゴリズムと、それを図式で表現するJISフローチャートの記述方法、国家試験で出題される疑似言語の記述方法の学習を目標とする。 | | | | |
| 授業概要 | コンピュータプログラムの設計・作成に欠かせない計算手順を習得する科目であり、アルゴリズムの基本である順次・選択・反復の理解から、探索処理、整列処理などおよび、データ構造とアルゴリズムの関係を学習する。基本情報処理試験で出題される疑似言語もこの科目で習得する。また、動作確認の上でJava言語を利用しアルゴリズムの検証もおこなう。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | データ構造 | |
| | 2 | 流れ図の基本パターン | 20 | データ構造 | |
| | 3 | 流れ図の基本パターン | 21 | データ構造 | |
| | 4 | 繰返し処理 | 22 | 探索処理 線形探索 | |
| | 5 | 繰返し処理 | 23 | 探索処理 ブロック探索 | |
| | 6 | 繰返し処理 | 24 | 探索処理 二分探索 | |
| | 7 | 繰返し処理 | 25 | 探索処理 ハッシュ探索 | |
| | 8 | 中間試験 | 26 | 後期中間試験 | |
| | 9 | 配列操作 一次元配列 | 27 | 整列処理 基本選択法 | |
| | 10 | 配列操作 二次元配列 | 28 | 整列処理 基本交換法 | |
| | 11 | 疑似言語 | 29 | 整列処理 基本挿入法 | |
| | 12 | 疑似言語 | 30 | 文字列操作 | |
| | 13 | 疑似言語 | 31 | 文字列操作 | |
| | 14 | 疑似言語の基本パターン | 32 | ビット操作 | |
| | 15 | 疑似言語の基本パターン | 33 | ビット操作 | |
| | 16 | 疑似言語の基本パターン | 34 | ファイル処理 | |
| | 17 | 前期期末試験 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期講座の総復習 | 36 | 後期期講座の総復習 | | |
| 成績割合 | テスト | 60% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>75% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 高等教育機関で30年以上の経験及び、社旗人教育2以上の経験をもつ。また、学内業務システム作成の経験を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------------------|---------------------------------------|--|--------------|
| 科目名 | プログラミング実習1b | | 担当者名 | 石原 明人 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 3単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 216時間(週講時数6) |
| 授業目的 | プログラミング言語Javaを通して、プログラム開発を学ぶ。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | Javaプログラム言語を使ったプログラム作成方法習得。コマンドプロンプトとsakuraエディタを使ってJavaアプリケーションプログラムの作成方法を学び、Swingを使ったフレーム(ウィンドウ)プログラムの知識と、MySQLデータベースをプログラム上で操作する技術までを目標とする。また、7月末にオリジナルデータベース検索システム、1月末にデータベース操作システムを作成し、卒業作品展にて発表を行う。 | | | | |
| 授業概要 | Java Swingを使ったフレームプログラムの作成を通して、想像力、論理的思考、問題解決力を鍛える。また、6月下旬からSQLの知識が必要となるので、SQLとの授業連携が必要となる。また、2年次にはJSP/Servletの学習を行うため、Javaプログラムの基本となる本科目の知識習得は重要である。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(実習環境の確認)/フレームプログラム作成 | 19 | クラスの基本 | |
| | 2 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 20 | クラスの基本 | |
| | 3 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 21 | クラスの基本 | |
| | 4 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 22 | メニューバー作成 | |
| | 5 | アクション設定 | 23 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 6 | アクション設定 | 24 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 7 | アクション設定 | 25 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 後期中間試験 | |
| | 9 | 例外処理 | 27 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 10 | 例外処理 | 28 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 11 | 例外処理 | 29 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 12 | データベース検索プログラム | 30 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 13 | データベース検索プログラム | 31 | オリジナルシステム作成3(SQLと授業連動) | |
| | 14 | データベース検索プログラム | 32 | オリジナルシステム作成4(SQLと授業連動) | |
| | 15 | オリジナルシステム作成1 | 33 | オリジナルシステム作成5(SQLと授業連動) | |
| | 16 | オリジナルシステム作成1 | 34 | オリジナルシステム作成6(SQLと授業連動) | |
| | 17 | オリジナルシステム作成1 | 35 | 後期期末試験 | |
| | 18 | 前期期末試験 | 36 | 作品発表・まとめ | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 本校情報処理専門科を卒業後、3年間ソフトウェア開発業務に従事し保険・金融系のプログラムを担当。その後母校での学科担任およびプログラミング実習担当として、PC環境整備やカリキュラム作成から授業まで担当している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | アプリケーション1a | | 担当者名 | 千葉 輝子 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 日商PC検定合格とビジネスソフトの活用を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | オフィスソフトであるワープロ・表計算の基本操作を学習。学習結果の証明として日商PC検定3～2級の合格を目指す。1年次の目標資格の1つであり、技術の修得だけでなく、次年度の就職活動に向けた資格取得も目的となる。 | | | | |
| 授業概要 | コンピュータ概論で取得目標としている、情報検定試験(J検)情報活用3～2級の試験範囲「アプリケーションソフトの利用と活用」を本科目で行う。アプリケーションソフトの利用と活用部分は、紙上より実際にアプリケーションを使用した方がイメージし易い為、本科目で行い確実に点数を取れるよう、繰り返し課題に取り組む。特に、複合参照に関してはITパスポートの範囲にも含まれている為、本科目での課題で理解を深める。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス | 19 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)1 | |
| | 2 | Word・Excel スキルチェック Excelの基本操作・数式の基本 | 20 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)2 | |
| | 3 | Wordの基本操作・ビジネス文書の基本 J検出題範囲 | 21 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)3 | |
| | 4 | ビジネス文書作成/四則演算・基本的な関数 | 22 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)4 | |
| | 5 | ビジネス文書作成/絶対参照・複合参照 | 23 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)5 | |
| | 6 | ビジネス文書作成/IF関数 など | 24 | 日商PC検定模擬問題(文章作成・データ活用)6 | |
| | 7 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 25 | 総合課題1 | |
| | 8 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 26 | 総合課題2 | |
| | 9 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 27 | 総合課題3 | |
| | 10 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 28 | 総合課題4 | |
| | 11 | ビジネス文書作成/J検過去問題解説 | 29 | 総合課題5 | |
| | 12 | ビジネス文書総合課題1/日商PC検定出題範囲1 | 30 | 総合課題6 | |
| | 13 | ビジネス文書総合課題2/日商PC検定出題範囲2 | 31 | 総合課題7 | |
| | 14 | ビジネス文書総合課題3/日商PC検定出題範囲3 | 32 | 総合課題8 | |
| | 15 | ビジネス文書総合課題4/日商PC検定出題範囲4 | 33 | 総合課題9 | |
| | 16 | ビジネス文書総合課題5/日商PC検定出題範囲5 | 34 | 総合課題10 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期振り返り | 36 | 後期振り返り | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 商社にて国内営業のアシスタントとして、事務処理(商品の入出庫管理、見積書の作成、売上の月次処理など)の経験があり、実務で活かせるオフィス操作の指導を心掛けている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | SQL | | 担当者名 | 石原 明人 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | リレーショナルデータベースを操作するSQLを習得する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | データベース操作言語であるSQL言語を習得する。データベースの検索・追加・更新・削除といった基本的な操作と検索における様々な条件設定の方法を学習する。また、プログラム作成でもSQLを使用するため、授業連携をしながらデータベース操作を修得する。また、国家試験合格のためのデータベース知識も同時に学習を進める。 | | | | |
| 授業概要 | RDBMSで使用するSQL文をMySQLを使って実践。データベース検索までの知識習得後、プログラミング授業と連携し、Javaプログラム上でデータベース検索するシステム作りを行う。授業後半はデータベース構築の知識を身に付け、オリジナルデータベースを作成する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | データベース作成 | |
| | 2 | 基本検索文/正規化練習 | 20 | テーブル作成 | |
| | 3 | 重複なし検索/正規化練習 | 21 | データ追加 | |
| | 4 | 条件検索/正規化練習 | 22 | データ更新 | |
| | 5 | 条件検索(IN)/正規化練習 | 23 | データ削除 | |
| | 6 | 条件検索(BETWEEN)/正規化練習 | 24 | 別名指定・関数 | |
| | 7 | あいまい検索/正規化練習 | 25 | 副問い合わせ1 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 副問い合わせ2 | |
| | 9 | 並び替え/正規化練習 | 27 | 後期中間試験 | |
| | 10 | 並び替え/正規化練習 | 28 | 外部キー設定 | |
| | 11 | 複数テーブルを使った検索/正規化練習 | 29 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 12 | 複数テーブルを使った検索/正規化練習 | 30 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 13 | グループ化/正規化練習 | 31 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 14 | グループ化/正規化練習 | 32 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 15 | グループ化の条件指定/正規化練習 | 33 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 16 | グループ化の条件指定/正規化練習 | 34 | データベースシステム作成(プログラミング授業と連動) | |
| | 17 | 前期期末試験 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 36 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | | |
| 成績割合 | テスト | 45% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | レポート(実習成果) | 45% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>70% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 本校情報処理専門科を卒業後、3年間ソフトウェア開発業務に従事し保険・金融系のプログラムを担当。その後母校での学科担任およびプログラミング実習担当として、PC環境整備やカリキュラム作成から授業まで担当している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | ネットワーク概論 | | 担当者名 | 片山 昌樹 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | ネットワーク主にインターネットの仕組みを習得する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | コンピュータ技術に必要不可欠となったネットワークの知識や技術を深く掘り下げ、実習を交えながらネットワーク技術を修得する。特にインターネットの標準プロトコルであるTCP/IPに関する知識を中心にネットワークの仕組みを学習する | | | | |
| 授業概要 | コンピュータ技術に必要不可欠となったネットワークの知識や技術を深く掘り下げ、実習を交えながらネットワーク技術を修得する。特にインターネットの標準プロトコルであるTCP/IPに関する知識を中心にネットワークの仕組みを学習する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | 19 | ポートについて その1 | |
| | 2 | ネットワークについて | 20 | ポートについて その2 | |
| | 3 | ネットワークの概念 | 21 | ポートについて その3 | |
| | 4 | ネットワークで用いる単位について | 22 | ポートについて その4 | |
| | 5 | 基数変換について | 23 | ルーティングの基礎 | |
| | 6 | 速度の求め方 その1 | 24 | スタティックルーティング | |
| | 7 | 速度の求め方 その2 | 25 | ルータの取り扱い及びネットワーク構築の基礎 その1 | |
| | 8 | 速度の求め方 その3 | 26 | ルータの取り扱い及びネットワーク構築の基礎 その2 | |
| | 9 | IPアドレスについて | 27 | ネットワーク構築 実習 その1 | |
| | 10 | IPアドレスの計算方法 その1 | 28 | ネットワーク構築 実習 その2 | |
| | 11 | IPアドレスの計算方法 その2 | 29 | ネットワーク構築 実習 その3 | |
| | 12 | IPアドレスの計算方法 その3 | 30 | ネットワーク構築 実習 その4 | |
| | 13 | ドメインについて その1 | 31 | ネットワーク構築 応用 その1 | |
| | 14 | ドメインについて その2 | 32 | ネットワーク構築 応用 その2 | |
| | 15 | ドメインについて その3 | 33 | ネットワーク構築 応用 その3 | |
| | 16 | ドメインについて その4 | 34 | ネットワーク構築 応用 その4 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期振り返り | 36 | 後期振り返り | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外のセキュリティ情報を常に追いかけ、その情報を授業に反映します。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 基礎ゼミ1A | | 担当者名 | 石原 明人 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 1学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | PBLによる学生の主体的なグループ学習 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 円滑なコミュニケーション能力の育成とグループマネジメント能力やグループ内での役割認知力を鍛える | | | | |
| 授業概要 | プログラミングの授業と連動して、その時期に学んだ技術を活かしたPBLを実施。テーマに沿ったアプリケーションの企画・立案・スケジュール作成および管理から実際のシステム作成およびテストまで提示された期間に遂行し、その過程と成果物についてのプレゼンテーションを行う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(実習環境の確認)/フレームプログラム作成 | 19 | クラス概念 | |
| | 2 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 20 | クラス概念 | |
| | 3 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 21 | クラス概念 | |
| | 4 | フレーム作成/コンポーネント追加 | 22 | メニューバー作成 | |
| | 5 | アクション設定 | 23 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 6 | アクション設定 | 24 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 7 | アクション設定 | 25 | ダイアログ作成/表示 | |
| | 8 | 前期中間試験 | 26 | 後期中間試験 | |
| | 9 | 例外処理 | 27 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 10 | 例外処理 | 28 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 11 | 例外処理 | 29 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 12 | データベース検索プログラム | 30 | データベース操作(追加・更新・削除) | |
| | 13 | データベース検索プログラム | 31 | オリジナルシステム作成3(SQLと授業連動) | |
| | 14 | データベース検索プログラム | 32 | オリジナルシステム作成4(SQLと授業連動) | |
| | 15 | オリジナルシステム作成1 | 33 | オリジナルシステム作成5(SQLと授業連動) | |
| | 16 | オリジナルシステム作成1 | 34 | オリジナルシステム作成6(SQLと授業連動) | |
| | 17 | オリジナルシステム作成1 | 35 | 後期期末試験 | |
| 18 | 前期期末試験 | 36 | 後期振り返り | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 本校情報処理専門科を卒業後、3年間ソフトウェア開発業務に従事し保険・金融系のプログラムを担当。その後母校での学科担任およびプログラミング実習担当として、PC環境整備やカリキュラム作成から授業まで担当している。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|---|--------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 英語2 | | 担当者名 | 鈴木 由香 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 社会人として、またIT業界で必要とされる英語力を身に付ける。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | この科目は社会人に必要な教養を身に付ける必要性を啓発するものである。今までの英語学習経験において苦手意識を持っている者も、改めて英語というコミュニケーションツールの学習に取り組み今後の人生を豊かに過ごすための一つの手段と考えて取り組むこと。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「OXFORD Talk Time 3 Student Book」を使用。 プログラミング作成や、インターネットを使った情報検索など、この業界で仕事をするうえで避けては通れない「英語」に慣れ親しみ、苦手意識を克服し、社会人としての恥ずかしくないレベルの英語を身に付ける必要があると気づかせる。また、国際交流イベントなどにおいて、積極的にコミュニケーションをとるための英会話を学び、英語に興味を持ち、これから自主的に英語を学ぶ気持ちを養う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | 授業内容 | | |
| | 1 | オリエンテーション1 | 19 | Customs /It+不定詞、before、when、after | |
| | 2 | オリエンテーション2 | 20 | Events and celebrations | |
| | 3 | Describing /現在形、現在進行形、過去形 | 21 | Jobs /How long、since、forなど | |
| | 4 | Free-time activities | 22 | At work | |
| | 5 | Geography /比較級、最上級 | 23 | Recent activities /過去完了形 | |
| | 6 | Weather | 24 | Leisure activities | |
| | 7 | Everyday activities /過去進行形 | 25 | 後期中間のまとめ | |
| | 8 | Life experiences | 26 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 9 | 前期中間のまとめ | 27 | Describing people /how longの使い方 | |
| | 10 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 28 | Every habits | |
| | 11 | School subjects /～ing、～edやalready、never、still、yetなど | 29 | Stories /while、thenなど | |
| | 12 | At school | 30 | In the news | |
| | 13 | Phone messages /can、will、could、wouldなど | 31 | Before you travel /Have to、have got to、mustなど | |
| | 14 | Wishes /wishの使い方、too、enoughなど | 32 | Travel experiences | |
| | 15 | Opinions | 33 | 後期期末のまとめ | |
| | 16 | 前期期末のまとめ | 34 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 35 | まとめ1 | |
| 18 | 前期の振り返り | 36 | まとめ2 | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 40% | | | |
| | レポート | 20% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>25% R<<実働実践型学習>>25% A<<主体的参加型学習>>25% G<<海外体感型学習>>25% | | | | |
| 講師プロフィール | 海外留学、通訳案内、国連での業務経験を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|---------------------------------------|--|--------------|
| 科目名 | プログラミング実習2c | | 担当者名 | 矢島 徳章 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 8単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 228時間(週講時数8) |
| 授業目的 | プログラミング言語JavaによるWebシステムの理解と開発を学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | Java技術であるJSP/Servletの技術を学習し、ショッピングサイトの仕組みを理解して、オリジナルのショッピングサイトを制作する技術修得を目標とする。 | | | | |
| 授業概要 | 1年次履修しているHTMLおよびSQLを理解していること。およびプログラミングのにおいてJava言語を理解し、なおかつJava言語でデータベースの簡単な操作ができることを前提として授業が行われる。また、Webシステム(ショッピングサイト)作成において、システムのデザインに関する知識をシステム設計にて補間する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Java文法の復習 | 19 | JSP ディレクティブ、式、宣言、スクリプトレットタグ | |
| | 2 | クラス・インターフェース・スレッド | 20 | JSP パラメータによる出力変更、DBアクセス | |
| | 3 | サーブレット レスポンス出力 | 21 | BeanとJSPのアクションタグ、Beanのスコープ | |
| | 4 | サーブレット パラメータ受信 | 22 | MVCモデル データチェック・マスタ検索 | |
| | 5 | サーブレット DBアクセス | 23 | MVCモデル 接続プールによるDBアクセス | |
| | 6 | サーブレット DBマスター一覧 | 24 | MVCモデルによるマスタメンテナンス | |
| | 7 | サーブレット DB条件検索1 | 25 | MVCモデルとスクリプトの利用 | |
| | 8 | サーブレット DB条件検索2 | 26 | MVCモデルのまとめ | |
| | 9 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 27 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 10 | サーブレット セッション | 28 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 11 | サーブレット セッションを利用した一覧のページ分割 | 29 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 12 | サーブレット マスタ追加 | 30 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 13 | サーブレット マスタ変更 | 31 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 14 | サーブレット トランザクション処理1 | 32 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 15 | サーブレット トランザクション処理2 | 33 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 16 | サーブレット トランザクション処理3 | 34 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説・総評及び復習 | 35 | 後期期末試験の解答解説・総評及び復習 | |
| | 18 | 前期まとめと振り返り | 36 | 作品発表及び振り返り | |
| 成績割合 | テスト | 45% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | 実習成果及び作品評価 | 45% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体験型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 高等教育機関で30年以上の経歴と、夜会人教育2年以上の経歴および、学内業務システム作成の経歴を持つ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|--------------------------|--|---------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------|
| 科目名 | 資格試験対策a | | 担当者名 | 青島 由美子 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 情報処理技術者試験対策を目的とする。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカム) | 国家試験「基本情報技術者」の合格を目指すため、ネットラーニング社から提供されているe-Learning教材「基本情報対策」を受講し、6・7月に実施される「午前免除試験」を受講し、基本情報技術者試験の午前免除を目標とする。また、9月に実施される情報検定(J検)システム試験を受験し、午後試験のための知識を高める | | | | |
| 授業概要 | 就活において大きな武器となる国家試験「情報処理技術者」合格のための知識を学習する。午前免除を仕組みを利用するためにe-Learningを使った学習を5月から1か月間で完了し、4回受験可能な修了試験(午前免除試験)に挑戦するため、5～6月の集中的な学習が必要となる。また、10月に実施される秋期試験での合格を目標とするが、卒業後の4月に実施される春期試験も受験できるよう学習を継続する。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス | 19 | 基本情報午後問対策 情報セキュリティ | |
| | 2 | 基本情報過去問重点学習(ハードウェア) | 20 | 基本情報午後問対策 ハードウェア | |
| | 3 | 基本情報過去問重点学習(ソフトウェア) | 21 | 基本情報午後問対策 ソフトウェア | |
| | 4 | 基本情報過去問重点学習(データベース) | 22 | 基本情報午後問対策 データベース | |
| | 5 | 基本情報過去問重点学習(ネットワーク) | 23 | 基本情報午後問対策 ネットワーク | |
| | 6 | 基本情報過去問重点学習(ネットワーク) | 24 | 基本情報午後問対策 ソフトウェア設計 | |
| | 7 | 基本情報過去問重点学習(セキュリティ) | 25 | 基本情報午後問対策 プロジェクトマネジメント | |
| | 8 | 基本情報過去問重点学習(アルゴリズムとデータ構造) | 26 | 基本情報午後問対策 サービスマネジメント | |
| | 9 | 基本情報過去問重点学習(企業と法務) | 27 | 基本情報午後問対策 システム戦略 | |
| | 10 | 基本情報過去問重点学習(経営戦略) | 28 | 基本情報午後問対策 経営戦略・企業と法務/経営 | |
| | 11 | 基本情報過去問重点学習(情報システム戦略) | 29 | 基本情報午後問対策 データ構造とアルゴリズム1 | |
| | 12 | 基本情報過去問重点学習(開発技術) | 30 | 基本情報午後問対策 データ構造とアルゴリズム2 | |
| | 13 | 基本情報過去問重点学習(プロジェクトマネジメント) | 31 | 基本情報午後問対策 データ構造とアルゴリズム3 | |
| | 14 | 基本情報過去問重点学習(システム監査と内部統制) | 32 | 基本情報午後問対策 言語:表計算1 | |
| | 15 | 午前免除・修了試験対策1 | 33 | 基本情報午後問対策 言語:表計算2 | |
| | 16 | 午前免除・修了試験対策2 | 34 | 基本情報午後問対策 言語:表計算3 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説及び総評 | 35 | 後期期末試験の解答解説及び総評 | |
| | 18 | 前期振り返り | 36 | 後期振り返り | |
| 成績割合 | テスト | 50% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 30% | 成績評価 | | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>> | | | | |
| 講師プロフィール | 通信制御のシステム開発を経験後、大手情報系企業のネットワークSE向け教育プロジェクト一員にトレーナーとして配属され、情報の普及、教育トレーナー養成の業務に従事。その間、2度のAward Trainerの栄誉を受賞。多数の情報系有資格者。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | データベースソフト演習 | | 担当者名 | 新井 愛美 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | オフィスソフトAccessを | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | オフィスソフトの1つであるMicrosoft Office Accessの操作を学習。Microsoft社が実施するMicrosoft Office Specialist Access試験の合格を目指す。また、学習した知識・技術を使ってオリジナルのデータベースシステムを作成する。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「FOM よくわかるMicrosoft Access 2016基礎」「FOM よくわかるMicrosoft Access 2016応用」を使用。IT業界において頻繁に使われるデータベースソフトの操作について理解を深め、資格試験合格を目指す。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Accessの基礎 | 19 | フォームの活用 | |
| | 2 | データベースの設計と作成 | 20 | メイン・サブフォーム | |
| | 3 | テーブルによるデータの格納 | 21 | メイン・サブレポート | |
| | 4 | リレーションシップの作成 | 22 | レポートの活用 | |
| | 5 | クエリによるデータの加工 | 23 | 便利な機能応用編 | |
| | 6 | フォームによるデータの入力 | 24 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成1 | |
| | 7 | クエリによるデータの抽出と集計 | 25 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成2 | |
| | 8 | レポートによるデータの印刷 | 26 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成3 | |
| | 9 | 便利な機能 | 27 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成4 | |
| | 10 | 基礎編総合演習1 | 28 | 応用編総合演習 宿泊予約管理DB作成5 | |
| | 11 | 基礎編総合演習2 | 29 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成1 | |
| | 12 | テーブルの活用 | 30 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成2 | |
| | 13 | 参照整合性 | 31 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成3 | |
| | 14 | クエリの活用 | 32 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成4 | |
| | 15 | アクションクエリ | 33 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成5 | |
| | 16 | 不一致クエリ | 34 | 応用編総合演習 アルバイト勤怠管理DB作成6 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 過去に企業の新人研修、大学講座の経験があり、長年にわたって本校で授業担当をしている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | | |
|---------------------------|--|-------------------|---------------------------------------|--------|--|--|
| 科目名 | システム設計 | | 担当者名 | 亀田 崇高 | | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義 | | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) | |
| 授業目的 | システム開発における工程と各工程の手法を学習する。 | | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | システム開発における工程と各工程の手法を学習と共に、国家試験である基本情報技術者のシステム開発部分の知識を網羅し、資格試験対策としての役割も持つ。 | | | | | |
| 授業概要 | テキスト「ゆたか創造舎 ソフトウェア開発の知識」を使用。 本科目は、国家試験「情報処理技術者」合格の為の知識を学習すると共に、エンジニアとして実作業を行う際に必要な知識を事例を交えて学習します。 卒業制作等で行う開発作業において、各工程で適切な手法を用いて円滑に高品質なプログラムが作成出来るよう、実作業で使える知識を習得すること。 | | | | | |
| 授業計画表 | | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・授業内容) | | 19 | 構造化設計技法1 | |
| | 2 | 開発工程とレビュー | | 20 | 構造化設計技法2 | |
| | 3 | システム開発の要点 | | 21 | 構造化設計技法1 | |
| | 4 | 各工程で行う事 | | 22 | 構造化設計技法2 | |
| | 5 | ソフトウェアのライフサイクル | | 23 | 物理データ設計 | |
| | 6 | 契約モデル・開発取引の共通フレーム | | 24 | 入出力詳細設計 | |
| | 7 | ソフトウェアパッケージについて | | 25 | プログラム設計で行う事 | |
| | 8 | CASEツールについて | | 26 | モジュール設計技法1 | |
| | 9 | プロジェクト計画 | | 27 | モジュール設計技法2 | |
| | 10 | プロジェクト管理 | | 28 | プログラミングで行う事 | |
| | 11 | 見積り技法とプロジェクト組織の編制 | | 29 | プログラミング言語の概念1 | |
| | 12 | 品質管理と顧客満足度 | | 30 | プログラミング言語の概念2 | |
| | 13 | 外部設計について | | 31 | テストで行うこと・ケースの設計技法1 | |
| | 14 | 要求定義技法 | | 32 | テストで行うこと・ケースの設計技法2 | |
| | 15 | 要件分析・設計技法 | | 33 | テストの進め方と結果の管理1 | |
| | 16 | コード設計 | | 34 | テストの進め方と結果の管理2 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| | 18 | 前期のまとめ | | 36 | 後期のまとめ | |
| 成績割合 | テスト | | 70% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | | 20% | | | |
| | レポート | | 10% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~ 69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | | |
| 講師プロフィール | IT企業で長年エンジニアとして勤務した経験があり、開発に対する実務経験に基づいてエンジニア養成に向けた授業を展開する。 | | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------|--------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 教養基礎 | | 担当者名 | 堀切 昌美 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義・演習 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期(通年) 必修・選択(必修選択) | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | コミュニケーション能力主に伝える力を培う。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | プレゼンテーションとは、基本的に人と人とのコミュニケーションである。この力をつけることは、仕事だけでなく広く人生を豊かにすることにつながる。よって、プレゼンテーションの基本技術を身に付け、人前で話すことに自信を深めることができるよう、話し方や聴き方を学んだ後に、授業は発表を技法を中心に展開していく。実際にプレゼンテーションを実施することで、工夫を凝らしながら意欲を持って挑戦していく態度を養いたい。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「FOM プレゼンテーション・テクニック 惹きつけて離さない説得のコツ」を使用。 就職活動をする上においても、プレゼンテーション能力は誰にとっても誰にとっても必要なものであるため、自己PRなどの面接練習も取り入れる。発表を体験することで、自信もついていくと考えられるので、資料収集やシナリオ作成などの準備を授業外でも行うことを求めたい。 | | | | |
| 授業計画表 | | 授業内容 | | 授業内容 | |
| | 1 | 科目ガイダンス(目的・内容説明) | 19 | 発表技術を磨く・・・伝え方のテクニック | |
| | 2 | プレゼンテーションの概要/形式/流れの確認 | 20 | 表現・視線/パーソナリティ | |
| | 3 | 話し方を学ぶ | 21 | ビジュアル化の方法と実践1 | |
| | 4 | 聞き手の分析/話の聴き方 | 22 | ビジュアル化の方法と実践2 | |
| | 5 | 情報収集・整理の必要性 | 23 | リハーサルの仕方について | |
| | 6 | プレゼンテーションの組み立て1 | 24 | 読み上げ原稿の作成 | |
| | 7 | プレゼンテーションの組み立て2 | 25 | 筋書き表の確認 | |
| | 8 | 意見・アイデアの出し方/訴求ポイント | 26 | リハーサルで気を付けること | |
| | 9 | プレゼンテーションの構成について | 27 | プレゼンテーション能力を高めるために | |
| | 10 | 設計シートの作成 | 28 | プレゼンテーション本番での注意点 | |
| | 11 | 資料作成 | 29 | 最終プレゼン課題→1年生へのメッセージ | |
| | 12 | 内容検討 | 30 | 最終プレゼン課題 内容決め1 | |
| | 13 | シナリオ作成1 | 31 | 最終プレゼン課題 内容決め2 | |
| | 14 | シナリオ作成2 | 32 | 最終プレゼン課題 スライド作成1 | |
| | 15 | 配布資料の準備、確認項目 | 33 | 最終プレゼン課題 スライド作成2 | |
| | 16 | 前期プレゼン発表 リハーサル | 34 | 最終プレゼン課題 リハーサル | |
| | 17 | 前期プレゼン発表 | 35 | 最終プレゼン課題 本番 | |
| 18 | 前期プレゼン総評 | 36 | 最終プレゼン課題 総評 | | |
| 成績割合 | テスト | | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | | | | |
| | レポート | | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 0% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>> | | | | |
| 講師プロフィール | 私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。企画部、人事部等、自身の培ったものを若い世代に活かしたく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|----------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | ネットワーク実習a | | 担当者名 | 片山 昌樹 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | 主にLinuxサーバーの構築を学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 1年次に学んだネットワークの知識を活かし、Linux環境でのネットワーク構築設定や、サーバ構築とサービス設定などを学習する。また、ネットワークに必要なUNIX環境の知識や操作も経験する | | | | |
| 授業概要 | テキスト「技術評論社 ポートとソケットがわかればインターネットがわかる」を使用。 Linuxを使ったサーバ構築やサービス構築を実機を使いながら経験し、サーバ構築の方法を学習する | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Linux インストール | 19 | Web Server の構築 その1 | |
| | 2 | Linux の基礎 その1 | 20 | Web Server の構築 その2 | |
| | 3 | Linux の基礎 その2 | 21 | Web Server の構築 その3 | |
| | 4 | Linux の基礎 その3 | 22 | Web Server の構築 その4 | |
| | 5 | vi の使い方 その1 | 23 | Web Server の構築 その5 | |
| | 6 | vi の使い方 その2 | 24 | Web Server の構築 その6 | |
| | 7 | パーミッションの基礎 その1 | 25 | Web Server マルチドメインの構築 その1 | |
| | 8 | パーミッションの基礎 その2 | 26 | Web Server マルチドメインの構築 その2 | |
| | 9 | パーミッションの基礎 その3 | 27 | Web Server マルチドメインの構築 その3 | |
| | 10 | マルチユーザーの基礎 その1 | 28 | Web Server マルチドメインの構築 その4 | |
| | 11 | マルチユーザーの基礎 その2 | 29 | Web Server マルチドメインの構築 その5 | |
| | 12 | マルチユーザーの基礎 その3 | 30 | Mail Server の基礎 その1 | |
| | 13 | DNS の基礎 | 31 | Mail Server の基礎 その2 | |
| | 14 | DNS構築 その1 | 32 | Mail Server の基礎 その3 | |
| | 15 | DNS構築 その2 | 33 | Mail Server の基礎 その4 | |
| | 16 | DNS構築 その3 | 34 | Mail Server の基礎 その5 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| | 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外のセキュリティ情報を常に追いかけて、その情報を授業に反映します。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | セキュリティ概論 | | 担当者名 | 片山 昌樹 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 4単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 72時間(週講時数2) |
| 授業目的 | コンピュータセキュリティの理解を深める。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | ネットワーク実習で構築したLinuxサーバを活用して、ネットワークで使用されるセキュリティ技術を実習を通して体験する。 | | | | |
| 授業概要 | テキスト「SBクリエイティブ 動かして学ぶセキュリティ入門講座」を使用。 テキストを使った様々な脆弱性や脅威の知識を学びながら、ネットワーク実習と連動して授業を進め、ネットワーク実習で構築したサーバのセキュア設定を組み込んでいく。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | セキュリティの基礎 | 19 | プライバシーポリシー その1 | |
| | 2 | GMITS を用いたセキュリティ概念 その1 | 20 | プライバシーポリシー その2 | |
| | 3 | GMITS を用いたセキュリティ概念 その2 | 21 | プライバシーポリシー その3 | |
| | 4 | GMITS を用いたセキュリティ概念 その3 | 22 | プライバシーポリシー その4 | |
| | 5 | PDCA サイクル その1 | 23 | プライバシーポリシー その5 | |
| | 6 | PDCA サイクル その2 | 24 | ISMS その1 | |
| | 7 | PDCA サイクル その3 | 25 | ISMS その2 | |
| | 8 | PDCA サイクル その4 | 26 | ISMS その3 | |
| | 9 | CIA その1 | 27 | PGP を用いた暗号化メール その1 | |
| | 10 | CIA その2 | 28 | PGP を用いた暗号化メール その2 | |
| | 11 | CIA その3 | 29 | PGP を用いた暗号化メール その3 | |
| | 12 | CIA その4 | 30 | iptables その1 | |
| | 13 | 個人情報保護法 その1 | 31 | iptables その2 | |
| | 14 | 個人情報保護法 その2 | 32 | iptables その3 | |
| | 15 | 個人情報保護法 その3 | 33 | iptables その4 | |
| | 16 | 個人情報保護法 その4 | 34 | iptables その5 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>70% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 内閣情報セキュリティセンタ(NISC)のコラムにも記事が掲載されるほどのエンジニアで、国内外のセキュリティ情報を常に追いかけて、その情報を授業に反映します。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|--|--------------------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 経営・戦略 | | 担当者名 | 石渡 裕之 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 講義 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | 国家試験のストラテジ分野・マネジメント分野を学習する。 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 国家試験「ITパスポート」「基本情報技術者」に出題される、ストラテジおよびマネジメント分野で出題される用語や知識を深く掘り下げ、試験のために覚えた用語の本当の役割を理解する。また、IT企業のみならず多くの企業でも必要とされる経営・戦略の基礎知識の理解を目標に、様々な企業事例の紹介や経営・戦略の根底に結びつく考え方などについても幅広く取り上げます。 | | | | |
| 授業概要 | グローバル社会における趨勢なども大きく関わる問題なので社会情勢への関心も促していきたいところです。政治・経済に渡る一般常識の再確認も時折行いながら、資格獲得だけに留まらない経営・戦略の考え方の把握に努めたいと思います。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | ガイダンス(授業目的、進行の仕方についての説明) | 19 | 情報システム戦略 | |
| | 2 | 企業活動の中心にある経営・組織論 | 20 | 業務プロセス | |
| | 3 | プロジェクト総合マネジメント | 21 | ソリューションビジネス | |
| | 4 | プロジェクト・スコープ・マネジメントとプロジェクト・タイム・マネジメント | 22 | システム活用促進・評価 | |
| | 5 | プロジェクト・コスト・マネジメントとプロジェクト品質マネジメント | 23 | システム化計画 | |
| | 6 | プロジェクト人的資源マネジメント | 24 | 要件定義と調達計画 | |
| | 7 | プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント | 25 | 経営戦略手法 | |
| | 8 | プロジェクト・リスク・マネジメントとプロジェクト調達マネジメント | 26 | ビジネス戦略と目標・評価 | |
| | 9 | サービスマネジメント | 27 | 技術開発戦略の立案・計画 | |
| | 10 | サービスの設計移行 | 28 | ビジネスシステム | |
| | 11 | サービスマネジメントプロセス | 29 | エンジニアリングシステム | |
| | 12 | サービスの運用 | 30 | 民生機器・産業機器 | |
| | 13 | ファシリティマネジメント | 31 | 企業活動 | |
| | 14 | システム監査 その1 | 32 | 知的財産権 | |
| | 15 | システム監査 その2 | 33 | セキュリティ関連法規 | |
| | 16 | 内部統制 | 34 | 労働関連・取引関連の法規 | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説 | 35 | 後期期末試験の解答解説 | |
| | 18 | 前期のまとめ | 36 | 後期のまとめ | |
| 成績割合 | テスト | 80% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 10% | | | |
| | レポート | 10% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 広告制作会社のコピーライター及びプランナーの経験の後、印刷会社の企画デザイン部で管理者として実務経験を経てフリーランスに。併せて専門学校講師として教壇に立つようになり、講師歴は常勤時も併せると25年に及ぶ。 | | | | |

シラバス

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|---------------------------------------|--|-------------|
| 科目名 | 応用ゼミ2A | | 担当者名 | 矢島 徳章 | |
| 学科 | 情報システム科 大学コース | | 授業方法 | 実習 | |
| 認定単位 開講学年 | 2単位 2学年 | 開講期 必・選 | 前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u> | 授業時間数 | 36時間(週講時数1) |
| 授業目的 | PBLによる学生の主体的なグループ学習 | | | | |
| 授業目標 (ラーニング アウトカムズ) | 円滑なコミュニケーション能力の育成とグループマネジメント能力やグループ内での役割認知力を鍛える | | | | |
| 授業概要 | 応用プログラミングの授業と連動して、その時期に学んだ技術を活かしたPBLを実施。テーマに沿ったWebシステムの企画・立案・スケジュール作成および管理から実際のシステム作成およびテストまで提示された期間に遂行し、その過程と成果物についてのプレゼンテーションを行う。 | | | | |
| 授業計画表 | 授業内容 | | | 授業内容 | |
| | 1 | Java文法の復習 | 19 | JSP ディレクティブ、式、宣言、スクリプトレットタグ | |
| | 2 | クラス・インターフェース・スレッド | 20 | JSP パラメータによる出力変更、DBアクセス | |
| | 3 | サーブレット レスポンス出力 | 21 | BeanとJSPのアクションタグ、Beanのスコープ | |
| | 4 | サーブレット パラメータ受信 | 22 | MVCモデル データチェック・マスタ検索 | |
| | 5 | サーブレット DBアクセス | 23 | MVCモデル 接続プールによるDBアクセス | |
| | 6 | サーブレット DBマスター一覧 | 24 | MVCモデルによるマスタメンテナンス | |
| | 7 | サーブレット DB条件検索1 | 25 | MVCモデルとスクリプトの利用 | |
| | 8 | サーブレット DB条件検索2 | 26 | MVCモデルのまとめ | |
| | 9 | 前期中間試験の解答解説及び総評 | 27 | 後期中間試験の解答解説及び総評 | |
| | 10 | サーブレット セッション | 28 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 11 | サーブレット セッションを利用した一覧のページ分割 | 29 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 12 | サーブレット マスタ追加 | 30 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 13 | サーブレット マスタ変更 | 31 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 14 | サーブレット トランザクション処理1 | 32 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 15 | サーブレット トランザクション処理2 | 33 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 16 | サーブレット トランザクション処理3 | 34 | オリジナルシステム作成(ショッピングサイト制作) | |
| | 17 | 前期期末試験の解答解説・総評及び復習 | 35 | 後期期末試験の解答解説・総評及び復習 | |
| | 18 | 前期まとめと振り返り | 36 | 作品発表及び振り返り | |
| 成績割合 | テスト | 40% | 学習FB方法 | 前期・後期 成績表送付 | |
| | 学習態度 | 20% | | | |
| | レポート(実習成果) | 40% | 成績評価 | 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格 | |
| | 合計 | 100% | | | |
| P/R/A/G割合 | P<<課題解決型学習>>10% R<<実働実践型学習>>5% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>5% | | | | |
| 講師プロフィール | 高等教育機関で30年以上の経歴と、夜会人教育2年以上の経歴および、学内業務システム作成の経歴を持つ。 | | | | |